

磯地区統合小学校建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

大座西遺跡発掘調査報告書

平成18年3月

隠岐の島町土地開発公社
隠岐の島町教育委員会

例　　言

1. 本書は、隱岐の島町教育委員会が隱岐の島町土地開発公社の委託を受けて、平成14・16年度に実施した磯地区統合小学校建設事業に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2. 調査組織は次のとおりである。

調査主体　藤田　勲　隱岐の島町教育委員会教育長

事務局　齊藤　博　隱岐の島町教育委員会生涯学習課長

佐藤智樹　隱岐の島町教育委員会生涯学習課上事

調査指導　島根県教育庁文化財課及び島根県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査員　横田　登　隱岐の島町教育委員会生涯学習課文化振興係長

野津研吾　隱岐の島町教育委員会生涯学習課臨時職員

3. 現場における発掘作業・遺物整理作業に参加された方々及び、遺物実測・写真撮影等に御協力いただいた方々の名を記し、感謝の意を表します。(敬称略)

(発掘作業及び遺物整理作業)

岩田良夫　但馬　保　井川京子　新見淑子　村上　満　田中俊子　山崎弘子

引田　修　清水和雄　滝下好一　西田政男　佐々木菊雄

(遺物実測・写真撮影)

内田律雄　広江耕史　燕田貴保　池淵俊一　守岡正司　勝部智明　伊藤徳広

仁木　聰　馬庭範成　福間尚実　渡邊富美子　小銀康之　石橋裕子　舟木千晴

稻田陽介　竹下尚志

4. 本書の編集、執筆は、調査指導の先生方と遺物実測者の指導、助言を得ながら、横田、野津が行った。

5. 本書で使用した遺構記号は次の通りである。

SD = 槽、溝状遺構　SK = 土坑

6. 掘図中の矢印は真北を指す。

7. 本書中の高さはすべて海拔高で表示している。

目 次

例 言

第1章 位置と環境	1
第2章 調査の概要	7
第3章 まとめ	26
出土遺物観察表	28

第1章 位置と環境

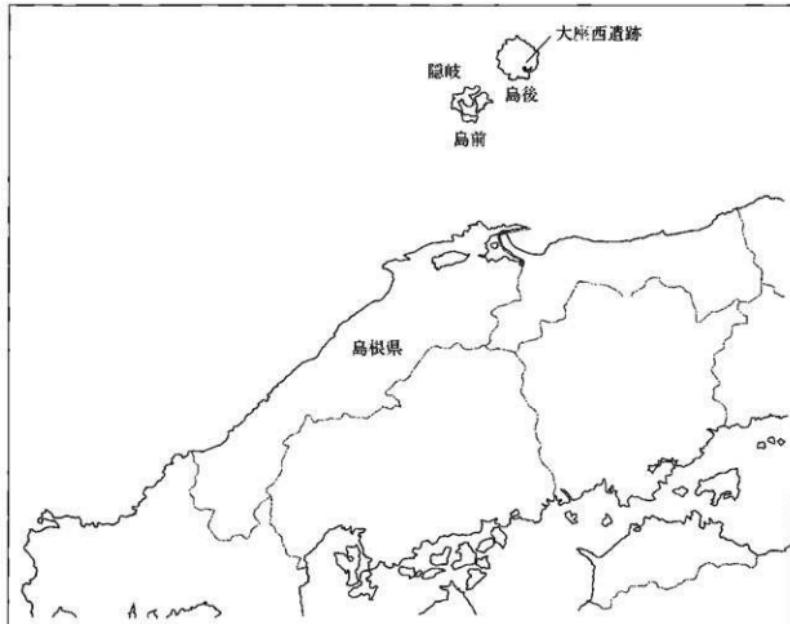
大座遺跡は、隠岐諸島の中の島後と呼ばれる島にあり、島根県隠岐郡隠岐の島町下西に所在する。隠岐諸島は、島根半島の北方沖合50～80kmに散在する4つの住民島と、大小180余の無人島からなっている。4つの住民島は大別して島前、島後と呼ばれ、南西部に位置する島前は西ノ島、知夫卑島、中ノ島の3島の総称である。島後という名のは島後一島の呼称で旧西郷町、旧布施村、旧五箇村、旧都万村の1町3村で構成され、現在市町村合併により隠岐の島町となっている。

島後は、諸島中最大の面積(243km²)をもち、ほぼ円形に近い形をしている。島の南東部、北西部にそれぞれ西郷湾、重柄湾が切り込みをつくっており、天然の良港となっている。

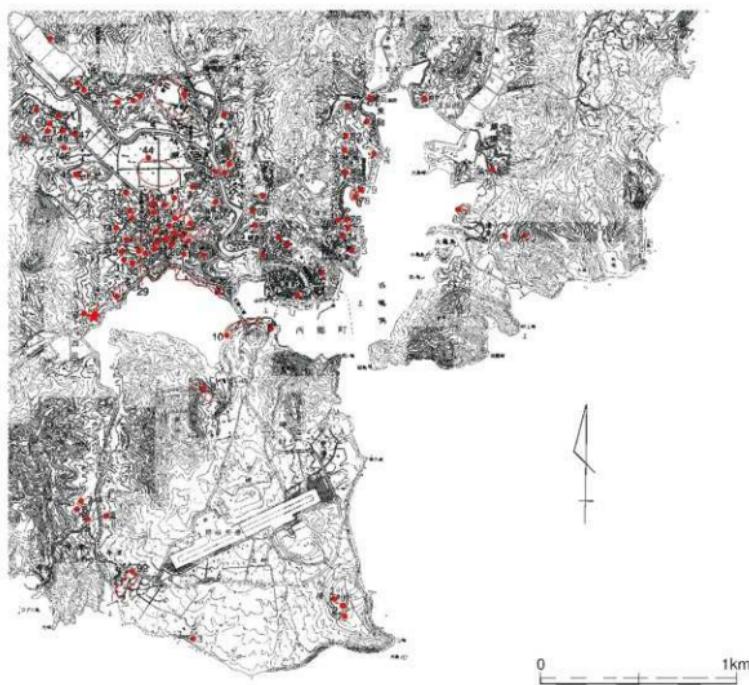
島の地勢をみると、最高峰大満寺山(608m)を中心とする山地は起伏がはげしく、それらが海岸まで続いている断崖絶壁の海岸線を作っている。その中で、北西部の旧五箇村、北部の旧西郷町中村、南部の旧西郷町平、南西部の旧都万村にはまとまった平地がある。中でも西郷湾に流れ込む隠岐最長の八尾川が形成した八尾平野(隠岐の島町平)は、隠岐最大の穀倉地帯といえる。島後の遺跡はこれら平野を取り巻くように集中しており、中でも西郷湾周辺は密集地といえる。

旧石器時代には隠岐の島町今津の東船遺跡で黒曜石製の臼形様石器と細石刃核が出土している。同地区の森遺跡では黒曜石製の尖頭器が出土しており、当地区に遺跡がまとまっている。

縄文時代の遺跡は、ほとんどが西郷湾内沿岸部に所在している。前期を中心とする遺跡として宮尾遺跡(隠岐の島町東郷)が、西郷湾の東湾ともいべき奥の小半島部に位置している。時代が下るに



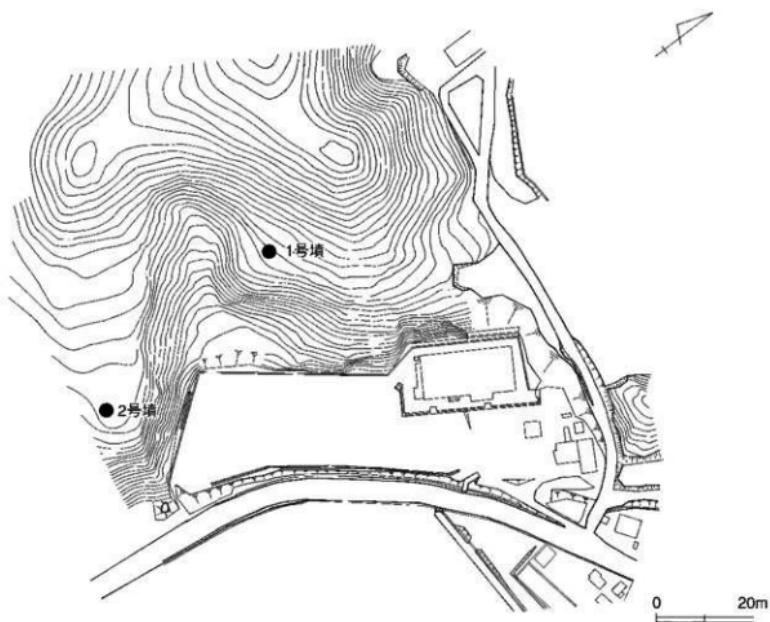
第1図 大座西遺跡の位置



第2図 大座西遺跡と周辺の遺跡 (S=1/50000)

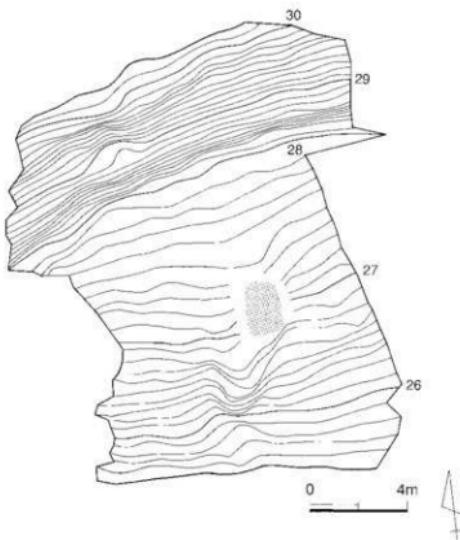
表1 大座西遺跡と周辺遺跡一覧

地区番号	遺跡名	地図番号	遺跡名	地図番号	遺跡名	地区番号	遺跡名
1	大座西遺跡	23	鹿木原古墳群	47	子安神社古墳	71	天神古墳群
2-A	御崎谷遺跡	24	能木原古墳群	48	尼東古墳群	72	西郷古墳古墳
2-B	大床遺跡	25	甲の原遺跡	49	蓬山古墳	73	半蔵古墳群
2-C	鶴崎谷古墳群	26	宮の前古墳群	50	平西の古墳	74	清久寺古墳群
3	西七塚古墳	27	宮の前1号墳	51	平神社古墳	75	八ギ遺跡
4	森溝跡	28	宮の前2号墳	52	本先古墳	76	ヘギ古墳
5	美田1号墳	29	玉毛寺命神社跡内古墳群	53	小松城跡	77	夢見トンネル遺跡
6	奥川丘古墳	30	岩巣古墳	54	青宮遺跡	78	宮尾古墳群
7	黒田御溝跡	31	神殿古墳群	55	船ヶ谷古墳	79	宮尾遺跡
8	龜の山残穴墓群	32	神殿古墳群	56	鶴崎国分寺跡	80	神木古墳
9	鷺井古墳	33	玉毛前山古墳群内古墳群	57	野中西遺跡	81	神木古墳群
10	くだりま遺跡	34	種待守跡	58	野中東遺跡	82	小田権八堂
11	西田古墳	35	柿古墳	59	高瀬遺跡	83	小田西方寺古墳
12	鏡中学校藝術廻	36	下西御崎神社古墳群	60	尼寺跡遺跡	84	宮田城跡
13	大坂古墳群	37	ヒノメサンド古墳群	61	大光寺跡	85	小田古墳
14	下西海岸遺跡	38	馬場遺跡	62	名田古墳群	86	水底小学校西側塙穴墓
15	国府尾城跡	39	豊京谷南北古墳	63	月無遺跡	87	船引小学校古墳
16	白髪古墳群	40	ハサコ古墳群	64	八田櫻穴墓群	88	鶴井古墳群
17	國府尾跡	41	豊京谷古墳群	65	源太遺跡	89	源太跡
18	早の原古墳群	42	川井古墳	66	大城遺跡	90	蓬花寺跡
19	甲の原古墳群	43	日記古墳	67	大城四磯突出型埴生瓦	91	蓬花寺山跡塙
20	大塔原遺跡	44	八尾川尾根塙生瓦遺跡	68	大川神社古墳	92	東船跡
21	大丹波遺跡	45	中山塙跡	69	西郷小学校1号墳		
22	能木原遺跡	46	中山古墳群	70	西郷小学校2号墳		

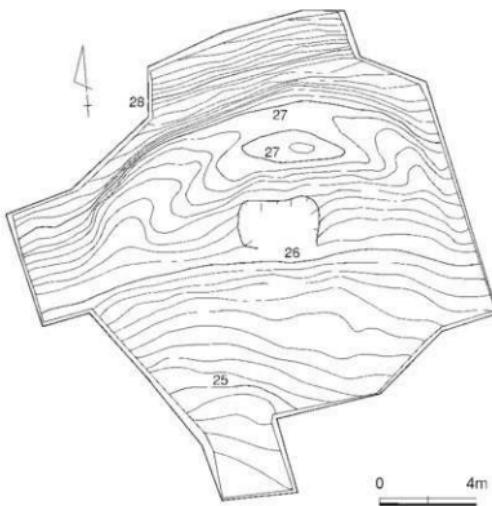


第3図 大座西遺跡周辺地形図 (S=1/1000)

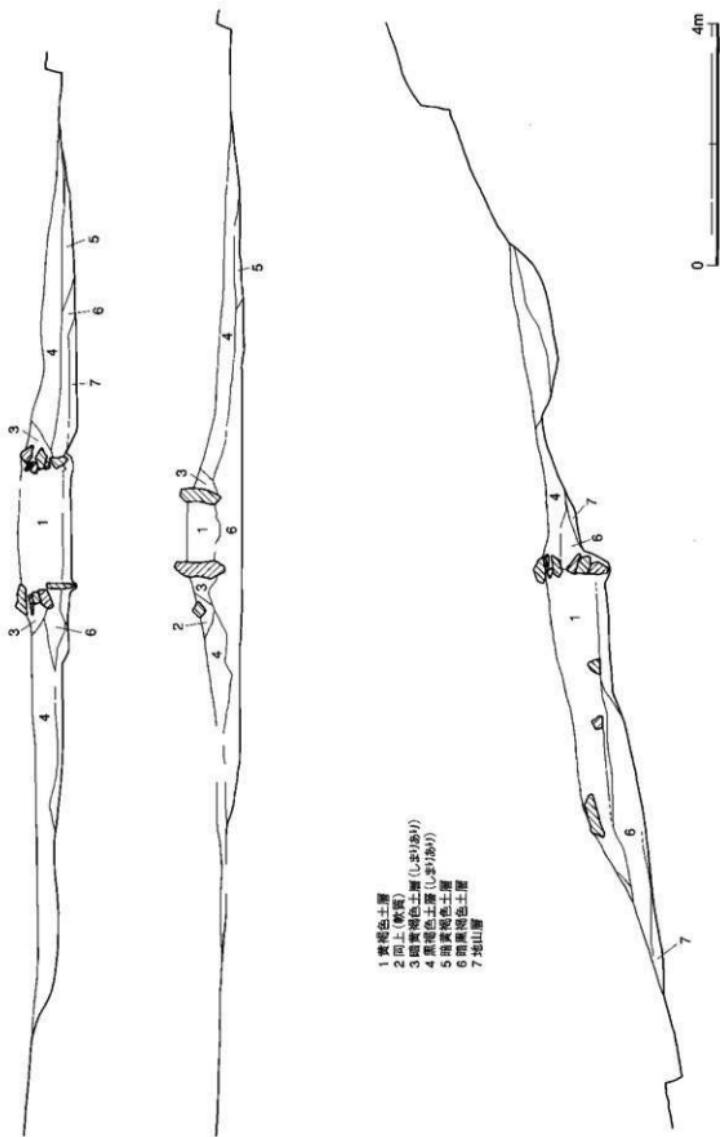
つれて大座西遺跡に隣接する西郷湾西方にも見られ、前期末から後期の下西海岸遺跡（同町下西）、後期を中心とするくだりま遺跡（同町下西）などがある。宮尾遺跡では条痕文土器や爪形文土器が見つかっているが、この条痕文土器は本土山陰側の佐太講式に比定されるように、他の遺跡の縄文土器も、器形・文様等本土側とよく似た歩みが見られる。弥生時代の遺跡としては、前期～中期の土器が月無遺跡（同町八田）から八尾川改修工事中に見つかっている。その下流の小高い丘陵上にある人城遺跡（同町西町）では、スタンプ文土器が見つかっており、さらに後期の四隅突出型埴丘墓も発見されている。主体部からは弥生土器の他に菅玉が出土している。古墳時代では前期の古墳はまだ見つかっていないが、中期から後期にかけての古墳が八尾平野の西側と南側の丘陵地帯に集中している。早い時期の古墳としては5世紀代の齊京谷古墳群（同町下西）がある。直径約25mの円墳で大刀や鉄鎌等が出土している。6世紀になると、小円墳が多数築かれるようになり、また前方後円墳も造られるようになる。島後最大の前方後円墳としては、八尾平野の西側に平神社古墳（同町平）がある。全長47m、後円部径約28m、高さ5mの墳丘をもち、くびれ部には横穴式石室が開口している。本報告の大座西遺跡2号墳と同じ尾根には小学校建築時に削平された磯中学校脇古墳や西田古墳があり、1号墳の近くには3基の円墳からなる大座古墳群がある。7世紀代に入ると横穴墓も多数造られるようになり、現在は数穴しか残っていないが、線刻が施されていた飯の山横穴墓群（同町岬）など、著名な遺跡も存在する。奈良時代以降については、八尾平野に条里制も確認され、八尾平野の北側丘陵には国分寺・国分尼寺跡、南側の台地には国府が所在したとされるが、正確な位置は不明である。中世の遺跡は島内各所に城跡が築かれているが、館跡を伴う国府尾城跡（同町港町）が最大の城跡である。近世



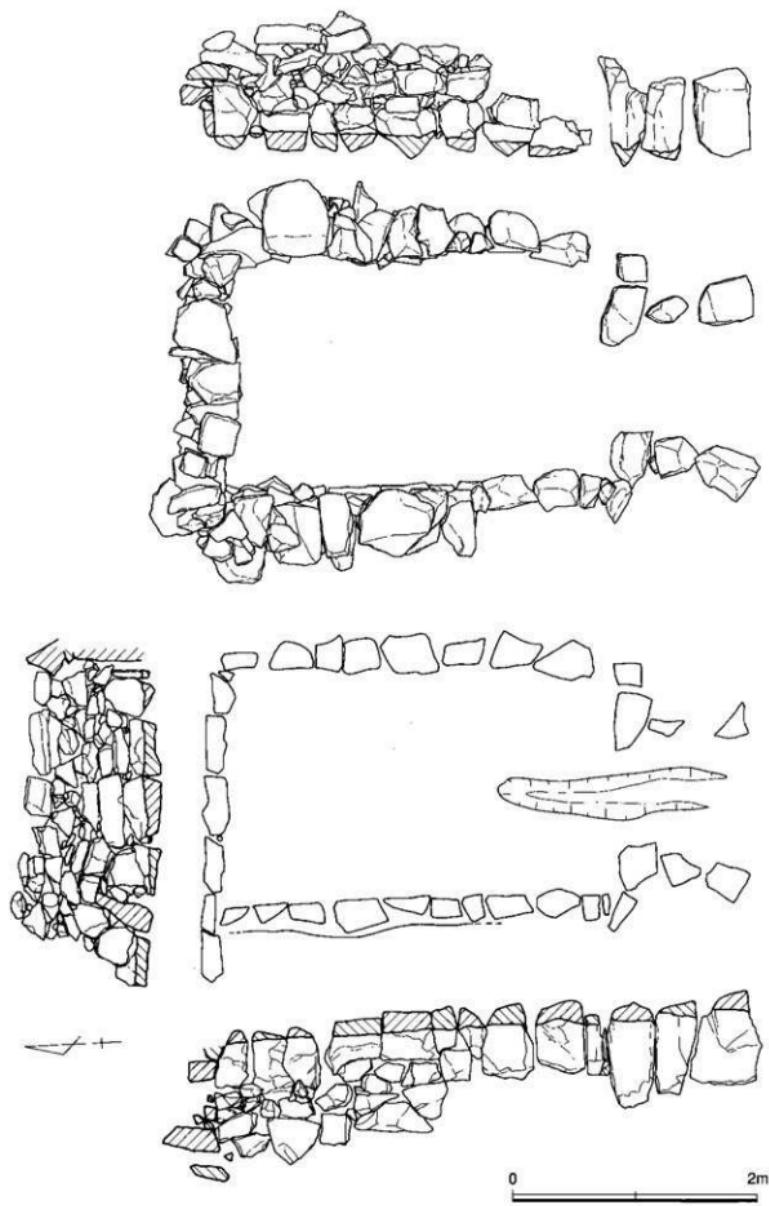
第4図 大座西遺跡1区調査前地形測量図 (S=1/200)



第5図 大座西遺跡1区調査後地形測量図 (S=1/200)



第6図 大座西遺跡1号墳土層断面図 (S=1/80)



第7図 大底西遺跡1号填石室実測図 (S=1/40)

については研究が進んでおらず、今後の課題といえる。これ以降の遺跡としては同町岬町の御崎谷遺跡と御崎谷Ⅱ遺跡で日露戦争に関係する望楼跡と官舍跡が検出され、同じく大床遺跡からは第二次世界大戦時の防空監視哨が確認された。

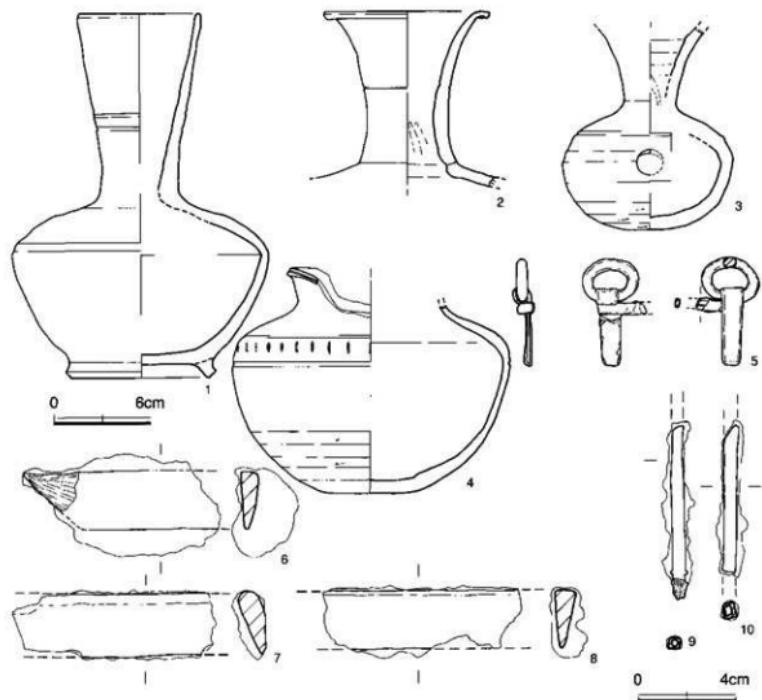
第2章 調査の概要

当遺跡は下西地区に所在し、西郷湾に面した丘陵に位置する。本報告では便宜上、1号墳が確認された地区を1区、2号墳が確認された地区を2区としている。

第1節 1区の概要

1号墳が所在する1区は磯中学校背後の標高約21~27mの丘陵斜面に位置し、緩やかな斜面に位置する。墳丘の南側は旧磯中学校校庭の造成工事により削られ、崖状になっている。当区からは1号墳が確認されたのみでその他の遺構は確認されなかった。

1号墳は標高25.75m~27mの急斜面に造られた古墳で、崩溝の形態から円墳と判断される。直径約



第8図 大庄西遺跡1号墳 出土遺物実測図 (S=1/3・1/2)

11mの規模と推定される。主体部は横穴式石室である。北側周溝部分から須恵器壺等が検出された。

第2節 1号墳の概要

1号墳では、発掘により調査区北側の山際に周溝を検出することができた。墳丘の北側に残存していた周溝の幅は約1m、断面形はじ字に掘られ、深さ約50cmである。周溝の東端は石室の奥壁の延長で消えており、西端は奥壁より約1m南で消えていた。東端から西端にかけて弧を描いており円墳と考えられる。墳丘は盛土により築造されているが、石室は地山を50cm程掘り込み築かれている。盛土の範囲は石室中心から、東端で約5.5m、西端で約6.5mである。

本古墳の主体部は、墳丘のはば中央に、南向きに開口する横穴式石室である。調査時にはすでに、天井石は削平と石室内への崩落のため、確認することができなかった。石室内部には土砂も充満しており、作業の危険性から崩落跡と土砂を取り除いてから作業を行った。

床面の平面形は縱長良方形で、玄室の奥行きは左壁で3.1m、右壁で3.1m、奥壁で幅1.8m測る。羨道は幅約80cmを測り、両袖式の石室である。入口側には左右両側に約80cm程の石が立てて据えてある。石室中央部には入口に向かって傾斜する深さ約8cm程の排水溝が設けてある。奥壁、左右側壁の石積方法はほぼ同様で、下から一段目は床面を掘り込んで大型で方形の石を組み、その石を支える暗黒褐色土を盛っている。その後2段目、3段目の側壁を積み上げ、暗黄褐色土を盛っている。2段目、3段目には小形の石を積み重ねてほぼレベルを揃えている。奥壁と右壁の石組みの関係は、奥壁が右壁に接して積まれているが、奥壁2段目の石はせり出させてのせる形で積まれている。さらにその上には右壁3段目の大型の石をせり出させてのせ、たがいちがいに組み合わせて構築することにより、両壁面の関係を強化している。奥壁と左壁もほぼ同様で、左壁が奥壁に接して積まれており、左壁1段目がせり出しており、その上に奥壁の2段目が積み重ねられ、たがいちがいに組み合わされている。入り口部分は1段目しか残っておらず不明である。壁は全体的に内傾気味に積まれている。

石室内は盜掘が行われたと考えられ、須恵器壺片が4点、鉄錆が2点、大刀3点、大刀の足金具1点が検出されただけであった。須恵器の壺片は同一個体で、左壁中央から外面を上にむけた状態で出土した。その他の出土位置は不明である。周溝の中央からは長頸壺が東側に倒れた状態で1点、割れた状態の壺が1点、長頸壺の頸部が1点出土している。

第3節 1区の出土遺物

1号墳を中心とする1区では、須恵器や土師器、鉄器、銅製品、石器が出土している。1号墳以外から土師器の壺と黒曜石の剥片が出土しているが図化はしていない。第8図1と2は須恵器の長頸壺である。1は頸部から口縁にかけて2条の沈線が施されているが、全周していない。肩は張り、高台は貼り付けである。2は口縁から頸部まで残っている。外面に1条の沈線が施されている。3はそうである。口縁部は欠損している。底部はヘラ削りである。4は短頸壺で肩部には2条の沈線の間に刺突文が施されている。5は銅製品の大刀の足金具である。環を薄い銅板が巻き込み、軸となっている。この軸に直交するように革部分が残っている。縦彫きの大刀の金具と考えられる。6から8は大刀の破片である。全て直刀と考えられる。6は刃部先端が残っている。7と8は刃部中程の破片であろうか。9と10は鉄錆である。9は茎部に木質が残っている。形状から長頸錆の破片と考えられる。

第4節 2区の概要

2区は1区の約45m南に位置している。磯中学校の南西にある丘陵尾根の先端に位置している。尾根は調査区より西郷湾側は急斜面となっており、下方には道路がある。海蝕や道路建設等により丘陵が削平されているが、湾に近接しているので尾根が大きく伸びることは無いと考えられる。

確認された遺構は調査区南東から2号墳の横穴式石室が、他に溝状遺構（SD-01・02）が2基、上坑（SK-01～04）が4基検出された。出土遺物としては須恵器や土師器、鉄器、銅製品、石器が出土している。このほとんどは2号墳の石室から出土している。土師器は古墳時代の窯が、石器は黒曜石の剥片が出土しているが、本報告では図化していない。

第5節 2号墳の概要

2号墳は横穴式石室で標高21mあたりに築かれており、1号墳より6m程低い位置であった。前述の通り、墳丘の南北側と東側は道路などの造成工事により削られて崖状になってしまっており、斜面の際に位置している。戦後の開墾により墳丘は上部人半及び漢道部入口部分は削平されていたが、残存する石室の中心と思われる箇所から十字ベルトを設置し、上層断面の確認をしながらの調査を行った。その結果、墳丘は丘陵尾根に盛土と地山整形により築造していることが判明した。盛土は、石室中心から東側で約6m、西側で約3.5mの範囲で確認できた。

石室は、奥壁、側壁とともに基底部しか残っていなかったが、大型の長方形の剥石を用いている。石室の構築方法であるが、最下段の石を据えるため地山を掘り込んでいる。西壁下は約20cm掘り込んでいるのに対し、東壁下は35cm掘り込んでいる。これは石の大きさが違うため、据えたときの石の上面の高さを揃えるためと考えられる。最下段を据えた後、赤褐色土で支える。その上に黄褐色土を盛っている。東壁の根石は他の根石と比べ約10cm程深く掘り廻してある。これは基底部のレベルを揃えるためと考えられる。西壁、東壁ともに奥壁に接する部分には大型の石を立てて据えてある。

床面には、奥壁に平行するように約80cmの平石4枚が2列に敷かれていた。レベルはほぼ同じで標高約21mである。約50cmごとの等間隔で据えてであることから、棺台であったと考えられる。

上層断面を見る限りでは周溝は確認することができず、墳形は不明である。

石室内の遺物出土状況であるが、石室には盜掘の痕跡もなく、出土した遺物は床面に接して出土していることから原位置を保っていると考えられる。

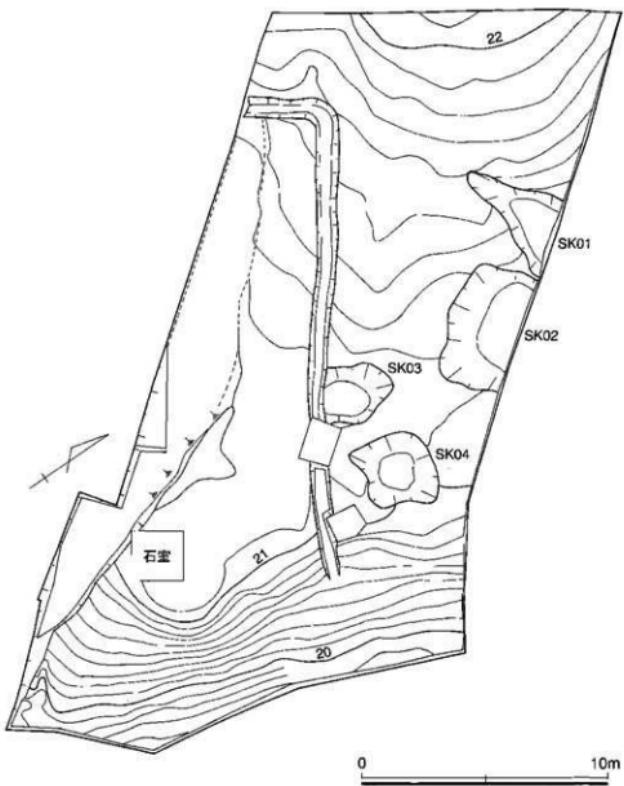
遺物は各所でまとめて出土している。まず奥壁と右壁の隅には積み重ねられたように須恵器と土師器が集中して出土している。土師器の壺は割れた状態で検出され、両隣に倒れた状態の広口壺と逆位状態の直口壺が検出された。それより内側には土師器壺が正位の状態で3点、また奥壁中央付近から須恵器壺身、土師器壺、須恵器壺身と積み重なった状態で出土し、奥壁中央部付近からもはそう、蓋壺が3点、その下から提鉢が検出された。東壁付近から直口壺が南側に口縁を向けた状態で検出された。

また石室入口中央付近からは暗文入土師器壺が伏せた状態で検出され、その東隣から2対の須恵器蓋壺が伏せた状態と、上を向いた状態で検出された。さらに石室中央部に割れた状態の須恵器蓋壺、高壺、土師器壺が検出された。

玉類は、奥壁中央付近棺台の北側中央付近を中心に集中して出土した。勾玉10点、切子玉1点、ガラス玉1点、土玉3点である。

鉄器は大刀が奥壁に立てかけた状態で刃部を下に向かたものが2本、右壁中央からは側壁に平行に置かれた刃部を外に向かたものが1本、奥壁と右壁の角の土器の下から4本の計6本検出された。鉄矛は大刀と離れて2点、矛先を西に向かた状態で鉄矛が1点検出された。鉄鏃は玉類と同じところから矛先が残っているもので15点出土した。他に鉄斧が奥壁付近から4点出土していた。

銅製品としては耳環が棺台の上から4点（内1点が鉛製）が出土した。他に銅鏡が石室南側を切っているSD-01から出土していた。石室内にあったものと考えられるが、元の位置は不明である。

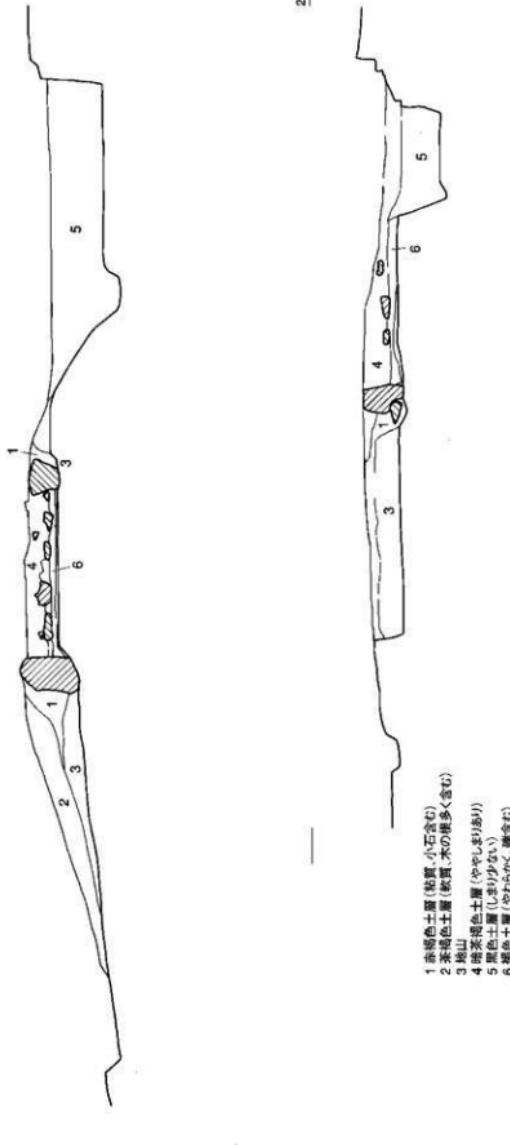


第9図 大座西遺跡2区調査後地形測量図 (S=1/200)

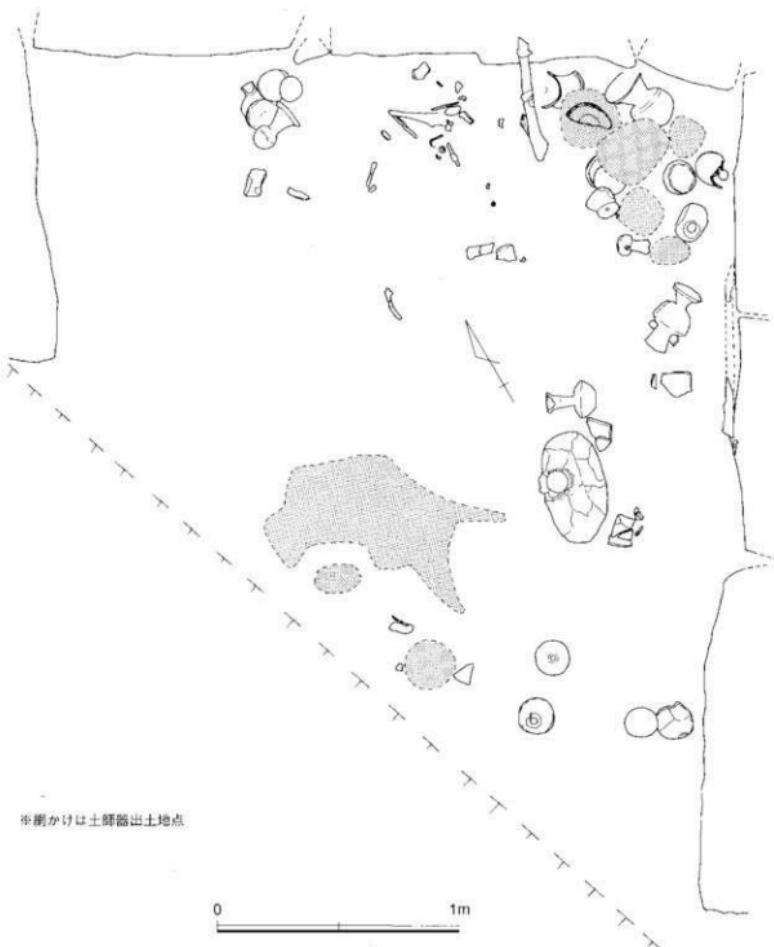
22.0m

22.0m

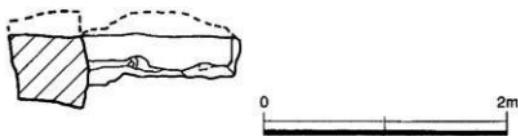
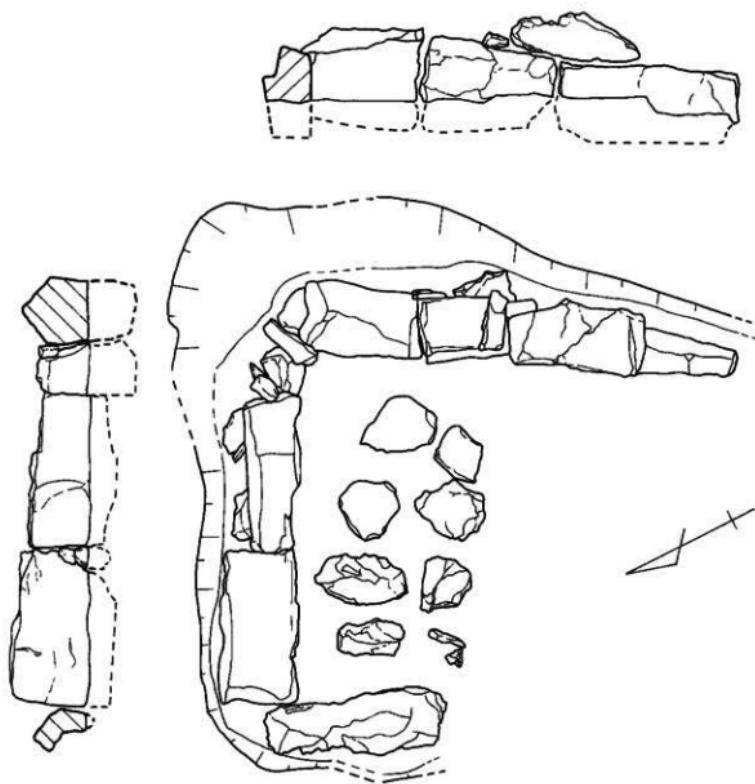
0 4m



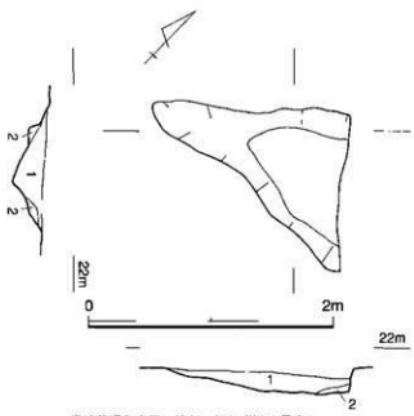
第10図 大座西遺跡 2号墳土層断面図 (S=1/80)



第11図 大塚西遺跡 2号埴石室内遺物出土状況図 (S=1/20)

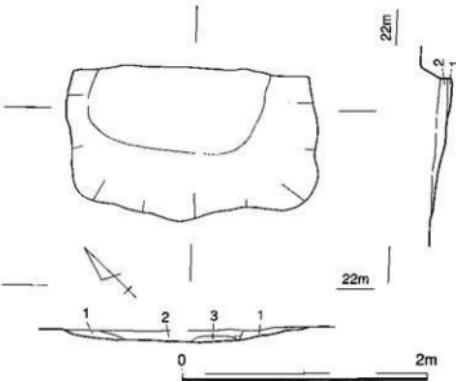


第12図 大座西遺跡 2号填石室実測図 (S=1/40)



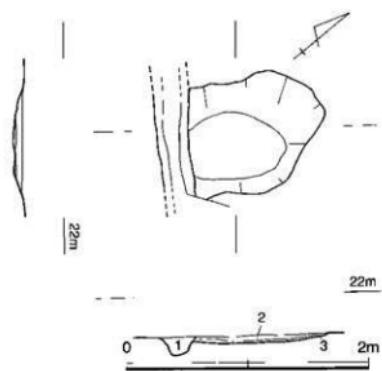
①暗茶褐色土層…縫まりがあり、炭を少量含む
②明茶褐色土層…小粒の礫を多く含み、やや軟質

第13図 2区SK01実測図 ($S=1/40$)



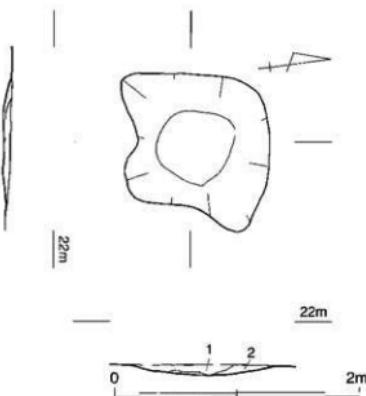
①明茶褐色土層…小粒の礫を多く含み、軟質
②暗茶褐色土層…縫まりがあり、炭を少量含む
③灰色土層…粘質土

第14図 2区SK02実測図 ($S=1/40$)



①黒色土層…縫まりがなく、木の根を多く含む。
SD-02がかかっている
②暗茶褐色土層…縫まりがある
③茶褐色土層…縫まりがなく軟質

第15図 2区SK03実測図 ($S=1/40$)



①明茶褐色土層…縫まりがない
②灰褐色土層…粘質土で木の根を多く含む

第16図 2区SK04実測図 ($S=1/40$)

第6節 2区その他の遺構

SD01

地元の聞き取りによると、調査区南側に戰時中のものと考えられる塙が掘られていた。この溝は調査区西側から石室南側にかけて深さ約2m、幅約1m掘り込んでおり、埋土からは銅鏡や須恵器片が出土した。土層は黒色土が約60cm程、下層にはしまりのある暗茶褐色土が約30cm、しまりがなく木の根を多量に含む赤褐色土が幅12cm程で地山に沿って溝の北側壁に堆積していた。

SD02

SD01と平行する形で調査区西から東にかけて掘り込んである。深さは約30cm、幅約30cm程度で、埋土から陶磁器片などが出土している。SD01を掘り込んで作られており、SD01より新しいもので、戰後の畑作を行っていた頃の溝と考えられる。

SK01

SK01は調査区北西部にあり、幅3.5m、長さ4mを測る。暗茶褐色の埋土を掘り下げると、浅いところで約40cm、深いところで70cmで底面が検出された。出土遺物はなく、性格・時期ともに不明である。

SK02

SK01の東側で検出されたが、暗茶褐色の埋土を掘り下げると、約20cmで地山が確認された。埋土中から須恵器壺片が検出された。幅2.5m、長さ5mを測る。須恵器壺片が検出されたことから墳丘と同時期の土坑と考えられるが性格は不明である。

SK03

SK02の南側に位置し、暗茶褐色の埋土を掘り下げると12cmで地山が検出された。埋土中から須恵器高环が検出された。2号墳で出土している須恵器と同時期にあたり、墳丘と同時期の土坑と考えられる。

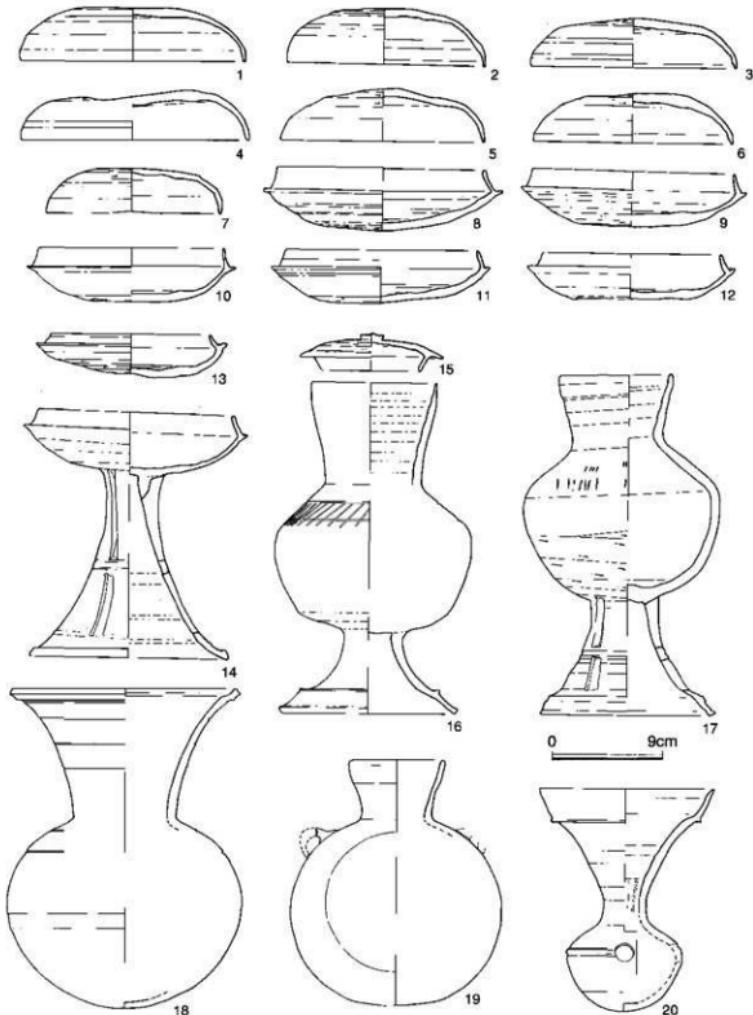
SK04

SK03の北東に位置する。埋土は2層に分かれて、上層から約15cm程の粘質灰褐色土、暗茶褐色土である。埋土を掘り下げると須恵器壺片が少量検出された。須恵器壺片は古墳時代のものと考えられる。

他の土坑と同時期のものと考えられるが性格は不明である。

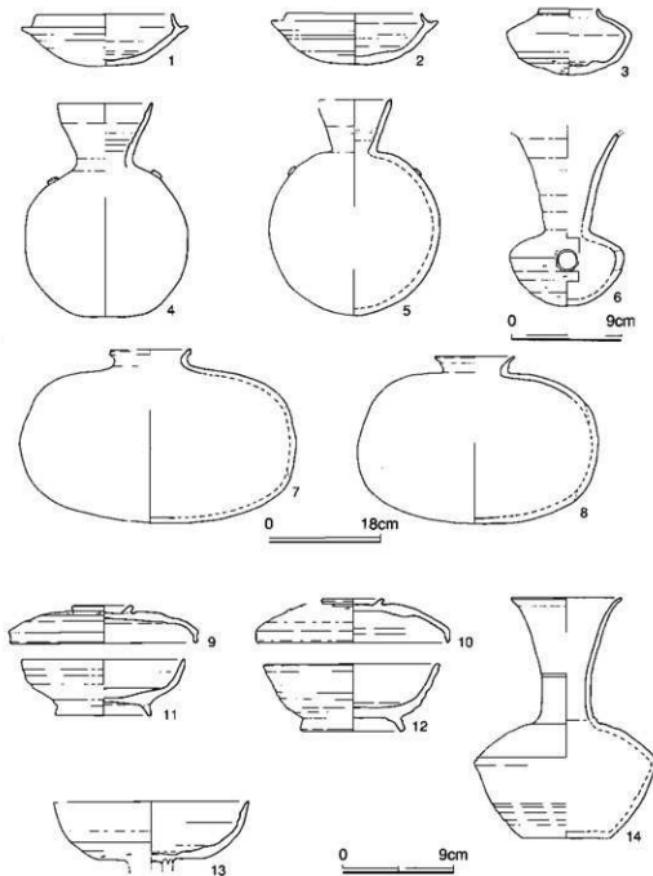
第7節 2号墳の出土遺物

大庭西2号墳からは須恵器や土師器、金属器（鉄器、銅製品、鉛製品）、石製品、ガラス製品が出土している。鉄器には大刀や鶔、はばき、鉄矛、鉄鎌、肉頭金具、刀子、鉄斧、やりがんながある。銅製品としては銅鏡と耳環、帯金具がある。鉛製品と考えられるのは耳環である。石製品は勾玉や切小玉の玉類、ガラス玉は丸玉が出上している。

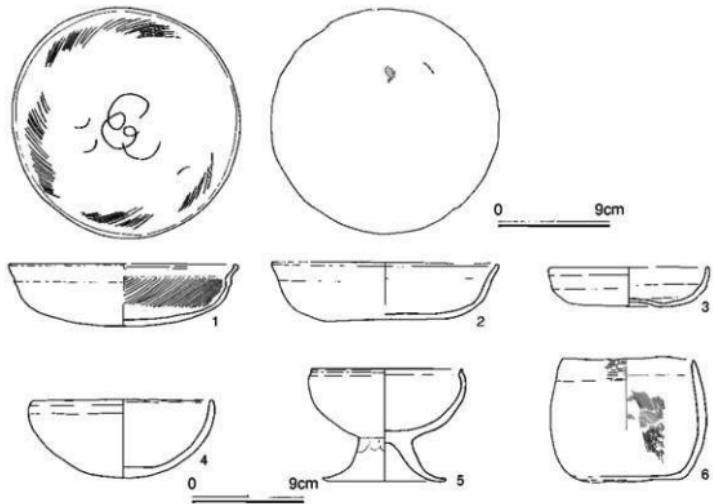


第17図 大庭西遺跡2号墳 出土須恵器実測図(1) (S=1/4)

第17図と第18図は須恵器である。第17図1~7は須恵器の蓋杯の蓋である。1は口径が17.9cmあるが、7は14cmしかなく、かなり小型化している。全て外面上部にヘラ削りが施されている。8~13は蓋杯の身である。8~12に比べ、13は比較的小型である。13は7と対になっていたと考えられる。これらにも底部には全てヘラ削りが施されている。14は高杯である。杯部は8や9とほぼ同じ規格となっている。透かしは2段で3方向に施されている。16と17は脚付きの壺である。16は口縁部がわずかに開き、肩部に刺突文を持っている。脚部に透かしはない。17は脚部に2段で3方向の透かしを持っている。15

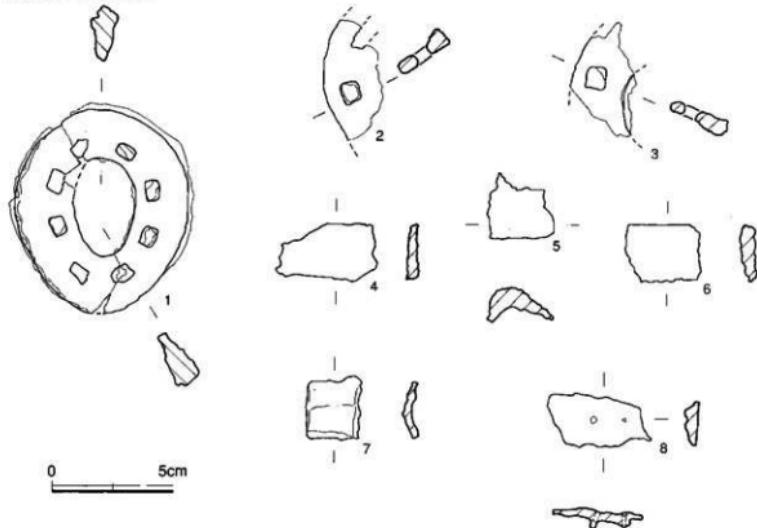


第18図 大座西遺跡 2号墳 出土須恵器実測図(2) (S=1/4・1/8)

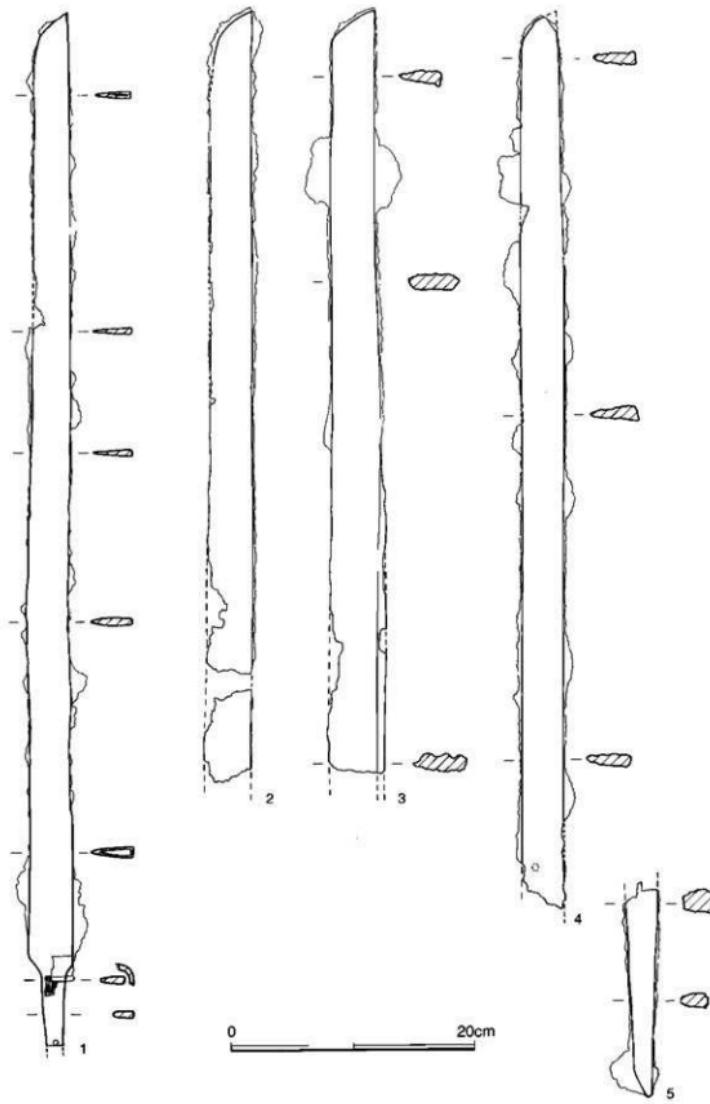


第19図 大座西遺跡 2号墳 出土土師器実測図 (S=1/4)

は壺の蓋である。底径から16に付属するものと考えている。18は広口壺である。外面に沈線を数条持っている。19は提瓶で、20はそうである。第17図の須恵器は7と13は若干下るが、およそ6世紀後半に位置づけられる。



第20図 大座西遺跡 2号墳 出土鉄器実測図 (1) (S=1/2)



第21図 大塚西遺跡 2号墳 出土鉄器実測図(2) (S=1/4)

第18図 1~2は蓋杯の身である。
口径が第17図の身に比べ小さい。
3は短頸壺で4と5が提瓶、6がは
そである。7と8は横瓶である。
胴部の長さは7が28.5cmでかなり
大きいものである。

9と10は蓋杯の蓋で輪状のつま
みが付いている。11と12は蓋杯の
身である。底部に高台が付いてい
る。13は高杯である。14は長頸壺
である。肩部が張っている。

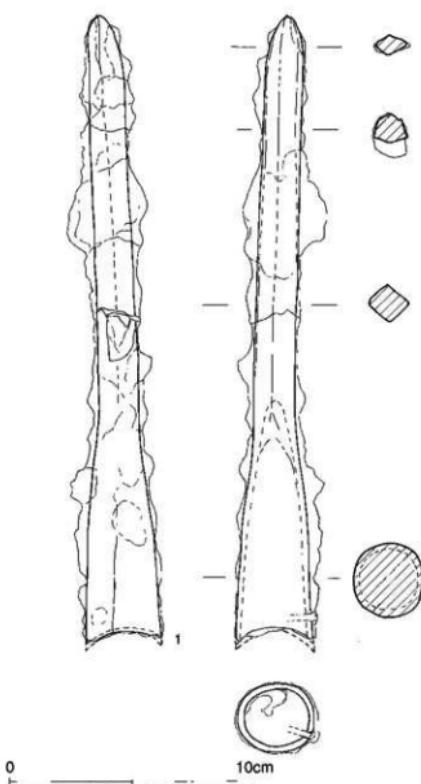
1~8が7世紀初頭で、9~14が
8世紀初頭と考えられる。

第19図は土師器である。1~4が
壺で5が高杯、6が壺である。

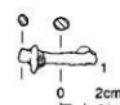
1は暗文入り壺である。口縁部
は2段にくびれている。胴部内面
に放射状暗文が1段あり、底部内
面に螺旋状暗文が施されている。
さらに底部内面には別の文様があ
るが、風化のため形態は不明であ
る。胎土は褐色で表面と同一色で
ある。2も暗文入りの壺と思われ
るが、風化しており詳細は不明で
ある。口縁部にくびれはないが、
胎土は1と同じである。3は浅い壺
で文様はない。胎土は1と2と同
じである。4は丸底の壺である。
胎土は1~3と異なり明赤褐色である。5は高杯である。6は平底の壺である。4~6は古墳時代後期に
畿内によく見られる土師器である。

第20図 1~3は鎧である。1は2つに割れていたが、ほぼ完形に接合する。側面に銀象嵌が施されて
おり、倒卵形である。象嵌は波状文と勾玉状の渦巻文で構成され、側面を
全周している。鎧の表面はかなり剥落している。8カ所の透かしがある。2
と3は鎧の破片である。2に2カ所、3に1カ所の穿孔が残っている。同
一個体になる可能性がある。これらがどの大刀に付属していたかわからなか
った。

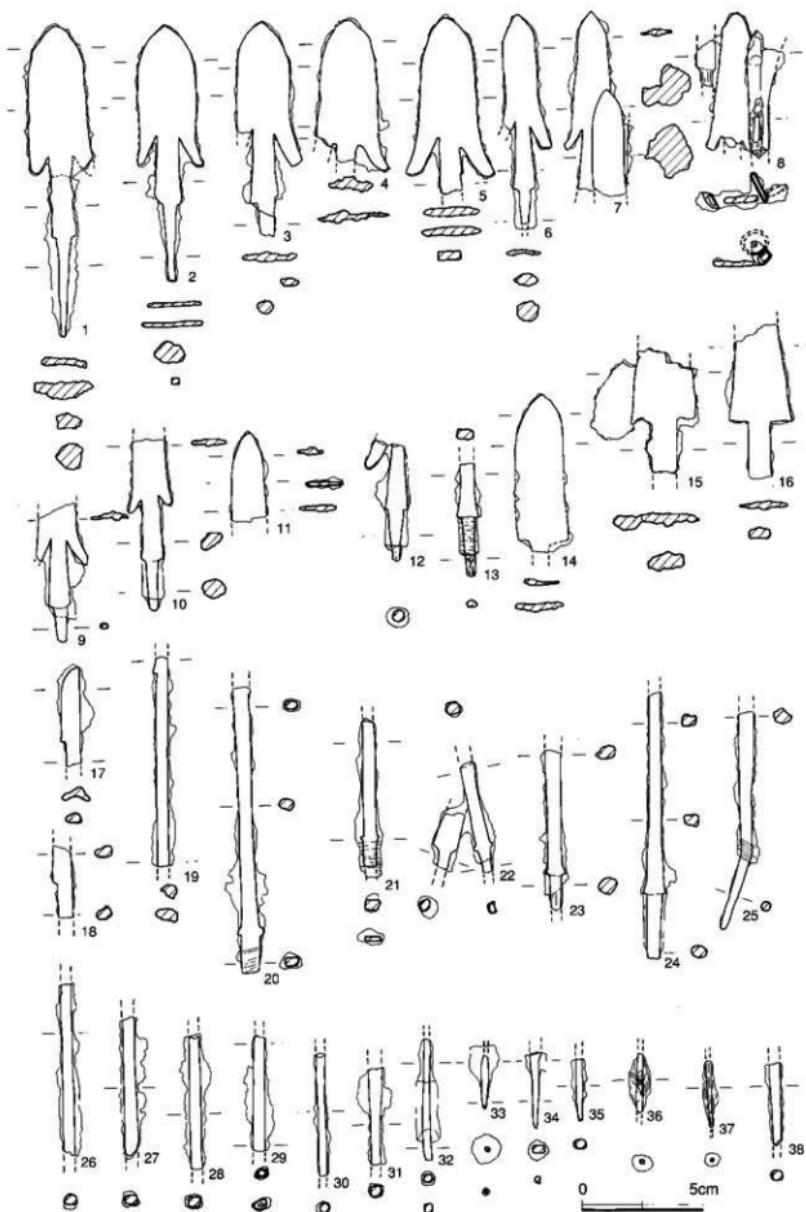
4~6ははばきである。これらが同一個体なのかは不明である。7と8は
不明鉄器としている。7は外面に稜を持っている。8は鉄片であるが2本突
起が付いている。



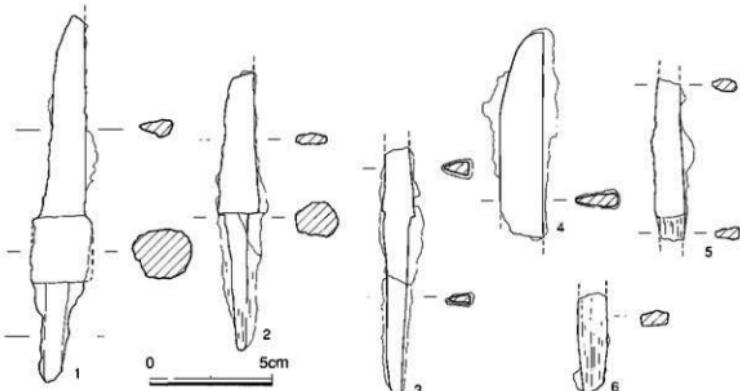
第22図 大座西遺跡2号墳 出土鉄器実測図(3) (S=1/2)



第23図 大座西遺跡2号墳
出土鉄器実測図(4) (S=1/2)



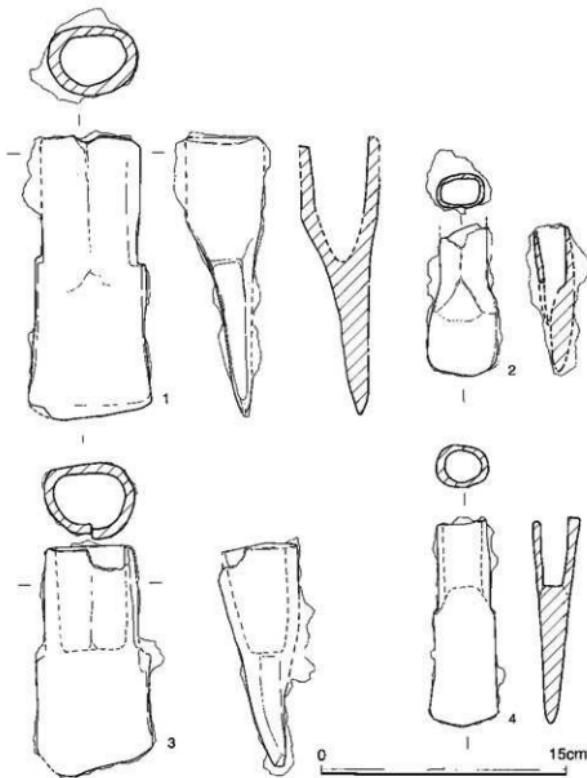
第24図 大塚西遺跡2号墳 出土鉄器実測図(5) (S=1/2)



第25図 大座西遺跡 2号墳 出土鉄器実測図(6) (S=1/2)

第21図 1~5は鉄製大刀である。1は茎部の先端が若干欠損しているがほぼ完形の大刀である。両側で、刀身はほぼ直線である。はばきと木質、目釘穴、鉄繩が付着していた痕跡が残っている。2~4は大刀の刃部である。2~4は直刀である。5は大刀の茎部と思われるが、目釘穴はみられない。5は2~4のいずれかと同一個体となる可能性がある。

第22図 1は鉄矛である。袋部はとじ合わせており、目釘も残っている。目釘は片側一方から打ち込まれている。刃部の断面は先端が扁平な不整六角形で中程が菱形に近い不整五角形、袋部に近くになると不整六角形となる。

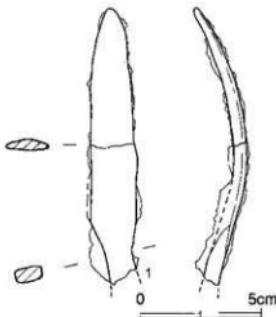


第26図 大座西遺跡 2号墳 出土鉄器実測図(7) (S=1/3)

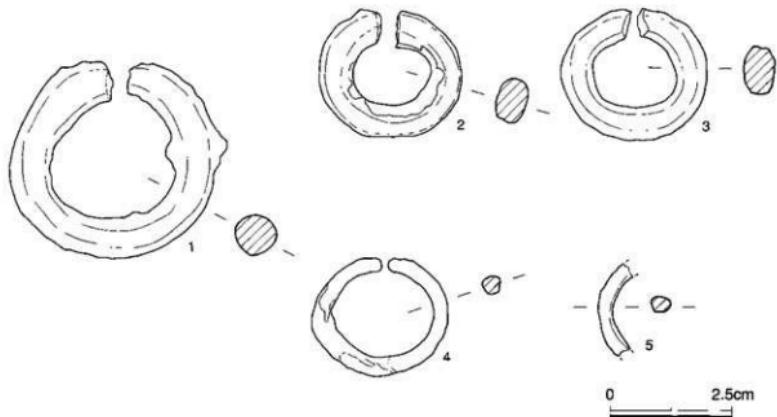
袋部はほぼ正円である。袋端部は山形折り式であるが、緩やかに内湾する。

第23図1は両頭金具である。両頭金具は弓に装着されるものであるが、用途は不明である。この両頭金具は一方の突起部より先端を欠損している。残っている突起部から中程には木質が残っている。弓に装着されていた可能性があり、2号墳からは弓は出土していないが、本来は刃も副葬されていたが腐朽し、この両頭金具のみ残った可能性がある。

第24図は鉄鎌である。1~16は短頭鎌で17~32は長頭鎌と考えられる。短頭鎌のうち、1~11は鎌身の平面形が柳葉形で、14~16が三角形と考えられる。鎌身関部の形状は1~10、12、13が逆刺で、14~16が直角閾である。鎌被の形状は残存しているものは全て有鎌被であると考えられる。7は3個体



第27図 大座西遺跡2号墳
出土鐵器実測図(8)(S=1/2)



第28図 大座西遺跡2号墳 出土青銅器実測図(1)(S=1/1)

が、8は最低4個体、15は2個体が付着している。

長頭鎌のうち17~20には鎌身が残っている。すべて鎌身の平面形が片刃箭で、鎌身関部は全て直角閾である。鎌被の形状は20と21、22(右)のように練鎌被のもの、24の台形鎌被のもの、25のように無鎌被のものと存在するようである。22(左)は有鎌被の長頭鎌の可能性もあるが、斜閾の短頭鎌である可能性も考えられる。26~38は頭部で、33~38は茎部のみであり長頭鎌か短頭鎌か不明である。鉄鎌のうち、頭部が残っているものはほとんどが木質が残存しているものがほとんどであり、鉄鎌は矢柄が装着されていたものと考えられる。

第25図1~6は刀子である。1は茎部から刃部まで残存しているが、刃部は先端を欠いている。

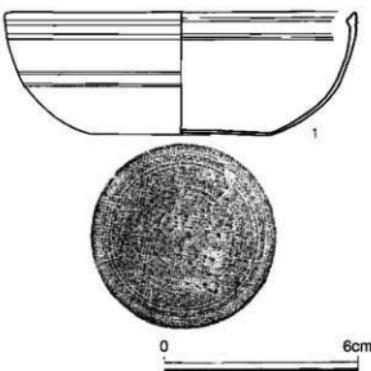
柄元金具が残っており、刃の形状は観察できなかったが、茎部と刃部の峰の位置から両閾と考えら

れる。茎部には木質が付着している。2は刃子で鹿角製の柄が装着されている。鹿角は茎部の先端まで残存している。両側である。刃部の先端は欠損している。3は両側の刀子である。刃部の先端は欠損している。4は刃部のみである。出土した刀子の中では刃部幅の残りが最も良いものである。5は片側の刀子である。刃部、中子とともに欠損している。中子には木質が残っている。6は刃子の中子としたものである。木質が残存している。

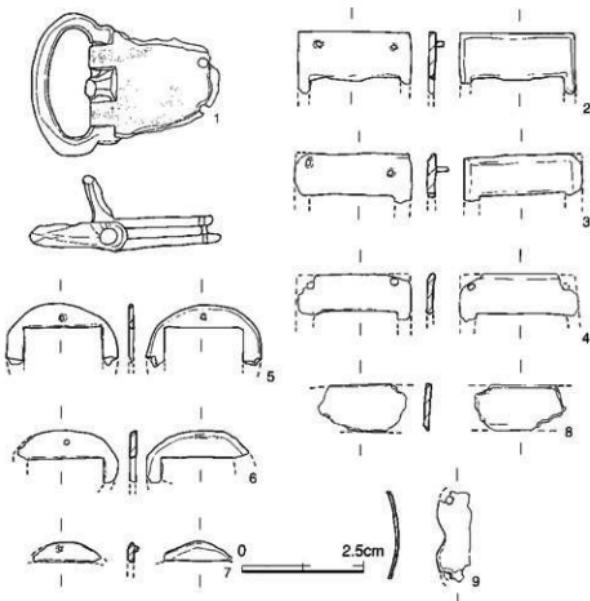
第26図は鉄斧である。1は4点のうち最も大形である。肩部は明瞭である。刃部の側面には鍛打による面取が行われている。袋部はとじ合わせており、接合部分は密着している。2は袋部上端の一部が欠損している。3も肩部が明瞭である。袋部と刃部は別作りである。刃部はかなり傾斜しているが欠損ではなく、研がれた結果と考えられる。4は袋部と刃部が別造りの有肩鉄斧である。

第27図1はやりがんなである。茎部は欠損している。刃部の横断面は山形でしのぎがみられる。頭部は長方形である。

第28図1~5は耳環である。1はX線が全く透過しないため、鉛製の耳環と考えられる。出土したものうち、最も大きいものである。2と3は表面に銀



第29図 大座西遺跡2号墳
出土青銅器実測図(2)(S=2/3)



第30図 大座西遺跡2号墳出土 青銅器実測図(3)(S=1/1)

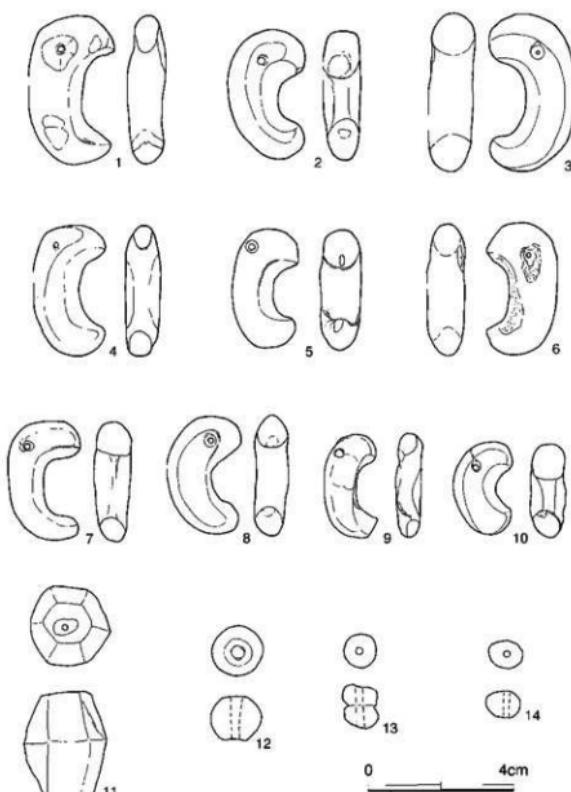
板を巻き付けたもので、2つとも内面に銀板が一部残っていた。形状や大きさもほぼ同じことからこれらは一对になると考えられる。4は細身の耳環である。表面は風化が激しく厚みは不明である。5は耳環の破片と考えられる。これも表面が風化しており、破損もしているので大きさ等は不明である。4と5も形状から一对になると考えられる。

第29図1は銅碗である。胸部と底部は薄いが口縁部は肥厚している。底部内外面に幅の狭い沈線がそれぞれ8本刻まれ、胸部外面には口縁部近くに幅の広い沈線が2本単位で2条（計4本）と、中程に2本を1単位とする2条の幅の狭い沈線が施されている。胸部前面には口縁部の下方に

3本で1条の幅が狭い沈線が施されている。底部はわずかに上げ底になっている。

第30図1～9は銅製の帯金具である。1が鉄具で、2～4が巡方、5～7が丸軸、9が鉈尾、8は巡方の可能性が高いが、小片のため不明である。巡方と丸軸は全て下半が欠損しているため大きさは不明である。2と3、7は閉じ合わせのための突起が残っており、巡方と丸軸はそれぞれ2対あったものと考えられる。1と9は表面の漆が塗られていた。本来は全面に漆が塗布されていたと考えられる。

第31図1～10は石製品の勾玉である。1～4と6～7は瑪瑙製で、5と8～9は碧玉製、10は水晶製である。すべて穿孔は一方からである。11は水晶製の切子玉である。これも一方からの穿孔である。12はガラス製の丸玉である。13と14は土製の小玉である。13は2個体が接着していると考えられる。



第31図 大庭西遺跡2号墳 出土石製品・土製品実測図 (S=3/4)

第3章　まとめ

まず大座西遺跡の上な遺構である1号墳と2号墳の築造時期を検討する。

1号墳は円墳で埋葬施設は割石を用いた両袖式の横穴式石室であった。石室からは須恵器などの時期が特定できるものが少なかったが、周溝から須恵器が數点出土している。数少ない須恵器の中で第8図1は7世紀後半と考えられる。その他の遺物の時期を判断する事は難しく、出土遺物から1号墳の築造時期を検討することは困難である。石室からは金属製品として鉄鏃以外に大刀片3点と足金具1点が出土しているが、この足金具がどの大刀に付属するものか不明である。

2号墳は後世の削平のため墳形は不明である。埋葬施設は1号墳と同じく割石を用いた横穴式石室である。石室も大きく破壊されており、規模はほとんど不明である。石室は最下段しか残存していないかったが、多量の遺物が出土している。出土した遺物には須恵器や土師器以外に多様な金属製品が出土しており、個々の遺物について時期の検討が可能かもしれないが、ここでは一般的的な遺物である須恵器の蓋坏と土師器の坏から2号墳の時期を考えてみたい。

石室から出土した須恵器は大きく3つの時期に分けられる。1期としては、第17図1~13が口径も大きく、天井部及び底部がヘラ削りである一群があげられ、およそ6世紀後半と考えられる。このうち7と13はわずかに口径が小さく、若干新しい可能性も考えられる。2期は第18図1~2で、口径が小さいものである。およそ6世紀終わり頃と考えられる。3期は第18図9~12と第19図1と2のおよそ8世紀前半の一群である。このように3つの時期の遺物が存在するが、築造時期は1期と考えられる。したがって2期と3期は追葬行為、あるいは何らかの目的で石室を再利用したと考えられる。1期と2期はさほど時期が離れていない点、1期の遺物が寄せ集められているようにまとまって出土した点、2期の遺物は3期の遺物に比べ奥壁側で格台の近くから出土している点から、2期に追葬が行われ1期の遺物を隣に寄せたと考えられる。3期は8世紀に入っており、遺物も玄門側から出土していることから追葬では無い可能性も考えられる。

2号墳からは多様な遺物が出土しているが、特筆すべきは数多くの金属製品が出土した事である。前述の通り1期の遺物はほとんどが北東隅や奥壁近くからまとめて出土しており、この中からほとんどの鉄製品が出土している。したがって鉄製品はほとんどが1期に所属すると考えられる。その他に特殊な遺物として銅碗と帶金具、略文入り土師器坏があげられる。

銅碗は石室を削平している溝から出土しているが、その他に2号墳に関係しているであろう遺物も出土しており、2号墳に納められていたものと考えている。ほぼ完形で出土し、保存状態も良好である。古墳時代から古代の銅碗は、隱岐郡内での出土は多沢横穴墓（知夫村）で出土した蓋に次いで2例目で、島根県内では他に身が出土した上塙治横穴墓群第23支群5号穴（出雲市）と明神古墳（大山市）でしか確認されておらず貴重な資料といえよう。

帶金具は、島根県内で各素材のものを合わせて10遺跡で確認されている。このうち波来浜遺跡（江津市）で複数の石製丸柄と巡方が出土しているのみで、その他の遺跡はいずれか単独の出土が多く、2号墳では鉄具と丸柄、巡方、鉈尾がセットで出土し、丸柄と巡方は2対ずつ出土していることからも、帶金具のセット関係を考える上で非常に興味深い資料である。

略文入り土師器坏は島根県内で多数出土しているが、隠岐郡内で出土する例も多い。県内には畿内産土師器を模倣して在地で製作した資料も多いが、これらは形状や文様、胎土から畿内産である可能性が考えられている。畿内産の場合、前述の銅碗や帶金具と合わせ直接持ち込まれた可能性が考えられる。隠岐郡内にはそういう畿内に関係した遺物が多数出土しており、出雲を介さず直接畿内との

関係を持っていたことが想像される。

次に周辺の古墳群との関係を見てみたい。大座西遺跡と同じく西郷湾を望む八尾川流域（下西地区）の古墳としては、玉若酢命神社古墳群と大座古墳群があげられる。玉若酢命神社古墳群は2基の前方後円墳と10数基の円墳からなる。墳形不明の3号墳は横穴式石室で6世紀に築造されたと考えられている。大座古墳群は3基の円墳からなり、5世紀から6世紀にかけての古墳群と考えられている。大座西遺跡2号墳と隣接した磯中学校脇古墳と、2つの古墳と同一の尾根上に築造されている西山古墳は合わせて一つの古墳群として考えた方が良いと思われる。

下西地区的丘陵には数基の古墳により形成される古墳群が多く、今回確認された2号墳も同様であると考えられ周辺の丘陵でさらには古墳が発見される可能性が高いと考えられる。1号墳については大座古墳群とも大座西遺跡2号墳の尾根ともはずれており単独の古墳の可能性がある。

最後に2つの古墳の石室について考えてみたい。石室の規模は1号墳が奥壁床面の幅が1.8m玄室奥行きは3.1mである。2号墳は奥壁床面の幅が2.8m、東壁が3.6mであった。隠岐郡内の横穴式石室は平面が長方形であることが多く、1号墳と2号墳も同様であると考えられる。

特に2号墳の石室の幅は広いと考えられ、古墳の時期や型式が違うため単純に比較はできないが、県内では大念寺古墳（出雲市）の2.9m、上塙治築山古墳（出雲市）の2.8mに匹敵する規模である。隠岐郡内では平西古墳の玄室幅が2.5mあり、水若酢1号墳は狭道入口から奥壁までが全長11m、奥壁幅が推定2.2m程度である。隠岐郡最大の古墳である平神社古墳は全長47mの前方後円墳であるが横穴式石室は壊れしており、全長8mで幅2mほど残っている。以上から少なくとも隠岐郡内では石室の全長は不明ながらも、2号墳は奥壁幅は最大の古墳であり、卓越した出土遺物からも八尾川流域の有力者が埋葬されていた可能性が考えられる。

以上、今回の調査で得られた調査成果を基に気づいた点について検討してきた。

大座西遺跡では横穴式石室を作り2基の古墳が発見され、多種多様な遺物が出土した。この発掘調査は2基の古墳が隠岐のみならず島根県内でも有数の古墳としてとらえられるに十分な成果をあげたと言える。

最後に末筆ながら発掘調査及び報告書作成に関してご協力いただいた地元の方々及び関係機関の方々に厚く御礼申し上げます。

参考文献

- 木永雅雄1981『増補日本上代の武器』
勝部 昭1985『隠岐島の古墳』『山本清先生喜寿記念論集 山陰考古学の諸問題』
前島己基1985『日本の古代遺跡 20 島根』
島根県立八雲立つ風土記の丘資料館1996『'96特別展 黄金に魅せられた倭人たち』
内川律雄1996『原始・古代の遺跡』『新修知夫村誌』
島根県古代文化センター1999『上塙治築山古墳の研究』
松江北高校考古学部・大谷晃一2004『玉若酢命神社古墳群測量調査報告』『島根考古学会誌』第20・21集 合併号
東方仁史2005『米子市宗像1号墳出土遺物について』『島根県立博物館研究報告』42

出土遺物観察表

件名番号	出土地点番号	区	出土地点	種別	器種	口径	器高	新舊大径	脚径	形態上の特徴	調整	色調	組成	胎土
8回1	13	1	周溝	須恵器	長頸壺	7.4	22.5	16	8.8	自然釉付垂 2条の沈縫	外底:ケズリのち 内底:ナデ	青灰色	良好	2~3mm程度の白 色砂粒を多く含む
8回2	13	1	周溝	須恵器	長頸壺	10.1		(10.1)		1条の沈縫あり	外底:回転ナデ 内底:ナデ(アレ ナ)	濃青灰 褐色	良好	1mm以下の白色砂 粒を少し含む
8回3	14	1	周溝	須恵器	はそう				(10.5)		外底:回転ナデ 内底:ナデ(アレ ナ)	青灰色	良好	1mm以下の白色砂 粒を多く含む
8回4	14	1	須恵器	短頸壺		14	16.8	5	2条の沈縫あり 鉄突文あり	外底:回転ナ 内底:回転ナ デ	青灰色	良好	3mm以下の白色砂 粒を少し含む	
9回1	13	1	周溝	須恵器	長頸壺	7.4	22.5	16	8.8	自然釉付垂 2条の沈縫	外底:ケズリのち 内底:ナデ	青灰色	良好	2~3mm程度の白 色砂粒を多く含む
8回5	14	1	1号後室	銅製品	足金具	4.5	2.3	3.2	8.56					備考
10回1	13	1	周溝	須恵器	刀身部					刀身部	茎部			備考
8回6	14	1	1号後室	鉄製品	大刀	(8.0)	(2.4)	0.7		長さ 幅 厚さ	長さ 口幅 戻幅	厚さ		
8回7	14	1	周溝	鉄製品	大刀	(8.4)	(2.8)	1						
8回8	14	1	周溝	鉄製品	大刀	(8.4)	(2.0)	0.8						
11回1	13	1	周溝	須恵器	錐	全長 8.0~9.0mm	身部	頭部	頭部					備考
8回9	14	1	1号後室	鉄製品	鐵鍔	(7.2)		(6.4)	(0.8)					木質残る
8回10	14	1	周溝	鉄製品	鐵鍔				(6.4)					木質残る
12回1	13	1	周溝	須恵器	手鏡									
17回1	26	2	周上	須恵器	坪蓋	17.9	4.3	18				青灰色	良好	1mm以下の墨色 砂粒を多く含む
17回2	26	2	周上	須恵器	坪蓋	15.7	4.5	16				青灰色	良好	5mm以下の白色砂 粒を少し含む
17回3	26	2	石室・ 南溝	須恵器	坪蓋	16.4	4	16.6		外側に自然跡が流れ る。天井底部に跡跡		青灰色	良好	3mm以下の白色砂 粒を多く含む
17回4	27	2	周上	須恵器	坪蓋	19	4.1	18.5				青灰色	良好	1mm以下の白色砂 粒を多く含む
17回5	27	2	2号後室	須恵器	坪蓋	16.2	4.3	16.4				青灰色	良好	1~3mmの白色砂 粒を多く含む
17回6	27	2	周上	須恵器	坪蓋	16	4	16				青灰色	良好	1~2mmの墨色 砂粒を多く含む
17回7	28	2	周上	須恵器	坪蓋	14	3.6	14.2				青灰色	良好	2~3mmの白色砂 粒を多く含む
17回8	28	2	周上	須恵器	坪身	16.6	5.2	19.2				青灰色	良好	1mm以下の墨色 砂粒を多く含む
17回9	28	2	周上	須恵器	坪蓋	16.2	4.5	17.2		外側に縦跡が少部分 有		青灰色	良好	1mm以下の墨色 砂粒を多く含む
17回10	29	2	周上	須恵器	坪身	14.9	4.4	16.9				外底:青 内底:ナデ	外底:青 内底:ナデ	2~3mmの白色砂 粒を少し含む
17回11	29	2	周上	須恵器	坪身	15.4	4.4	16.6				青灰色	良好	1mm以下の墨色 砂粒を少し含む
17回12	29	2	周上	須恵器	坪身	14.2	3.7	16.7				青灰色	良好	2mm以下の白色砂 粒を多く含む
17回13	30	2	周上	須恵器	坪身	12.7	3.5	15.4				青灰色	良好	5mm以下の白色砂 粒を少し含む
17回14	30	2	周上	須恵器	高坪	15.6	20.3	17.3	15.8	三段すきし。沈縫2本 あり。	外底:回転ナデ 内底:ナデ	青灰色	良好	1mm以下の白色砂 粒を少し含む
17回15	30	2	周上	須恵器	壺蓋	7.8	3.1	11.5				青灰色	良好	5mm程度の白色砂 粒を含む
17回16	30	2	周上	須恵器	脚付壺	10	26.9	15.8	23.8	2条の沈縫 鉄突文	外底:回転ナ 内底:ナデ 外底:ヘラズリ 内底:ナデ	青灰色	良好	1mm以下の白色砂 粒を多く含む
17回17	31	2	周上	須恵器	脚付壺	9.7	27.7	13.6		脚部に二本の沈縫 の跡がある	外底:回転ナ 内底:ナデ 外底:ヘラズリ 内底:ナデ	青灰色	良好	1mm以下の白色砂 粒を少し含む
17回18	31	2	周上	須恵器	広口壺	18.2	25.7	18.8				青灰色	良好	1mm以下の白色砂 粒を多く含む
17回19	31-32	2	周上	須恵器	提鉢	7.5	19.8	16.9				青灰色	良好	3mm以下の白色砂 粒を多く含む
17回20	32	2	周上	須恵器	はそう	13.9	17.9	14		全面に自然釉付	外底:回転ナ 内底:ナデ	濃青灰色	良好	1~3mmの白色砂 粒を多く含む
16回1	32	2	周上	須恵器	坪身	11.9	4.2	13.4		底部内面少しだけ 赤い	外底:回転ナ 内底:ナデ	青灰色	良好	1mm以下の白色砂 粒を少し含む
18回2	33	2	周上	須恵器	坪身	10.7	4.2	13.5				青灰色	良好	

16回3	33	2	同上	須恵器	短甕壺	4.8	53	10.1		外面に自然釉附着 変ねつき模様あり	外削: 回転ナード 内削: ヘラマツリ 内削: 回転ナードのちナード	灰皮	良好	2~3mmの白色砂 粒を多く含む
16回4	33	2	同上	須恵器	提瓶	7.5	17.3	13.6				青灰皮	良好	2~3mmの白色砂 粒を多く含む
16回5	34	2	同上	須恵器	提瓶	5.6	17.5	13.2		全面に自然釉附着 片断は平坦で一方は ふくらみもつ	外削: 回転ナード 内削: 回転ナード	青灰皮	良好	1mm程皮の白色砂 粒を少し含む
16回6	34	2	同上	須恵器	はそう	(13.7)	9.3				外削: 回転ナード 内削: ヘラマツリ	灰皮	良好	1~2mmの白色砂 粒を多く含む
16回7	2	同上	須恵器	機瓶	(12.8)	28.6	42		自然釉附着、残9cm ほどの円削附着模様 残る。灰皮に少りなし。	外削: 回転ナード 内削: ヘラマツリ 内削: 圓周充てん 内削: 平行タキシ 内削: 回転ナード	灰皮(焼 成不良) 青灰皮(灰 色)	良好 部不良	1~2mm以下の 砂粒を含む	
16回8	35	2	2号境 石室	須恵器	機瓶	(12.6)	27.6	36.5		自然釉附着、残8cm ほどの円削附着模様 残る。	外削: 回転ナード 内削: ヘラマツリ 内削: 圓周充てん 内削: 平行タキシ 内削: 回転ナード	灰皮色 灰皮色	良好	1~3mm以下の砂 粒を含む
16回9	36	2	同上	須恵器	坏蓋	14.8	3	15.2	4.8		外削: 回転ナード 内削: ヘラマツリ 内削: 圓周充てん 内削: 平行タキシ 内削: 回転ナード	黄灰皮	良好	1mm以下の白色砂 粒を多く含む
16回10	36	2	同上	須恵器	坏蓋	15.0	3.6	15.5			外削: 回転ナード 内削: ヘラマツリ 内削: 圓周充てん 内削: 平行タキシ 内削: 回転ナード	黄灰皮	良好	1mm以下の白色砂 粒を少し含む
16回11	36	2	同上	須恵器	坏身	13	4.6	13.2	7.6		外削: 回転ナード 内削: ヘラマツリ 内削: 圓周充てん 内削: 平行タキシ 内削: 回転ナード	灰皮	良好	1~3mm以下の砂 粒を含む
16回12	37	2	同上	須恵器	坏身	13.0	5.5	17.9			外削: 回転ナード 内削: 回転ナード 内削: 平行タキシ 内削: 回転ナード			
16回13	2	SK-03	須恵器	高环	16.7	5	15.7			外削: 回転ナード 内削: 回転ナード 内削: 平行タキシ 内削: 回転ナード	灰皮	良好	密	
16回14	37	2	同上	須恵器	長甕壺	9	(19.5)	15		洗練1条浅い。 旋盤上の跡あり。	外削: 回転ナード 内削: 回転ナードのちナ 内削: 圓周充てん	灰白色	良好	2~3mmの白色砂 粒を多く含む
19回1	37-38	2	同上	土師器		17.9	5	18.3		内面に旋削痕あり 外側に輪郭模様あり。	外削: 壁薄カズ 内削: 壁厚カズ 内削: 圓周充てん			
19回2	38	2	同上	土師器	坏(赤形)	18.2	4.8	18.1		内面に旋削痕あり 外側に輪郭模様あり。	外削: 壁薄カズ 内削: 壁厚カズ 内削: 圓周充てん	灰皮色	良好	1mm以下の白色砂 粒を少し含む
19回3	38	2	同上	土師器	坏	12.5	3.2	12.8			外削: 壁薄カズ 内削: 壁厚カズ 内削: 圓周充てん	赤褐色	良好	1mm以下の白色砂 粒を少し含む
19回4	39	2	同上	土師器	坏	14.3	6.3	15		内面に墨紋あり。	外削: 一部ケズ りか?	明赤褐色	良好	密(0.5mm以下の 砂粒を少し含む)
19回5	39	2	同上	土師器	低脚坏	12	9.1	12.6	9.8		外削: 壁薄カズ 内削: 壁厚カズ 内削: 圓周充てん	赤褐色	良好	1mm以下の白色砂 粒を少し含む
19回6	40	2	同上	土師器	壺	10.4	10	12.5		外壁に黑色付着物あり 内壁に墨紋あり。	外削: 横方向の 内削: 横方向の 内削: 圓周充てん	明赤褐色	良好	密(0.5mm以下の 砂粒を少し含む)
神奈川	出雲寺号	区	出土地点	埋甕	器種	全長	幅	厚さ		透	村賞	備考		
20回1	42	2	1号境石室	铁製品	牌	8.4	7	11		長方形8穴	鍛+鉄	侧面に鉛錠あり		
20回2	42	2	同上	铁製品	牌	(4.9)	(2.4)	0.8		長方形6穴以上	鉄			
20回3	42	2	同上	铁製品	鉗	(4.7)	(2.2)	0.6		長方形1穴以上	鉄			
神奈川	出雲寺号	区	出土地点	埋甕	器種	長さ	幅					備考		
20回4	42	2	2号境石室	铁製品	ばさき									
20回5	42	2	同上	铁製品	ばさき	(2.6)	(2.7)							
20回6	42	2	同上	铁製品	ばさき	(3.0)	(2.3)							
20回7	2	同上	铁製品	ばさき	(2.6)	(2.1)								
神奈川	出雲寺号	区	出土地点	埋甕	吸	横						木質残る		
20回8	42	2	2号境石室	铁製品	不規鐵器	2.2	3.6					木質残る		
神奈川	出雲寺号	区	出土地点	種別	器種	長さ	幅	厚さ		刀身部	基部	備考		
						長さ	幅	厚さ		身部	袋部			
21回1	43	2	同上	铁製品	大刀	79.3	3.4	0.8	(6.0)	1.8	口幅	刃先		
21回2	43	2	同上	铁製品	大刀	(54.9)	4.0				刃先	刃先		
21回3	43	2	同上	铁製品	大刀	(63.2)	3.8	1.5			刃先	刃先		
21回4	43	2	2号境C室	铁製品	大刀	(74.0)	3.7	1.1			刃先	刃先		
21回5	43	2	同上	铁製品	大刀					(17.8)	(2.6)	1.8		
神奈川	出雲寺号	区	出土地点	種別	器種	全長	幅	厚さ		刀身部	基部	備考		
						長さ	幅	厚さ		身部	袋部			
22回1	45	2	2号境B室	铁製品	鉗	25.5	1.6	1.7	1.7	8.5	3.2	10.3	刃先部	
22回2	45	2	同上	铁製品	鉗								刃先部	
22回3	出雲寺号	区	出土地点	種別	器種	全長	厚さ	幅		刃先部	刃先部	備考		
22回4	44	2	2号境C室	铁製品	西頭金具	3.2	0.6	1.2				木質残る		
神奈川	出雲寺号	区	出土地点	種別	器種	全長	身部長	頭部長	頭部長	頭部部	頭部部	備考		
						身部長	頭部長	頭部長	頭部長	身部	袋部			
24回1	44	2	2号境C室	铁製品	鉗頭	126	8.5	5.5	4.1	逆刃	柳葉頭	角頭		
24回2	44	2	同上	铁製品	鉗頭	10.7	7.5	4.6	2.9	3.2	柳葉頭	柳葉頭		
24回3	2	同上	铁製品	鉗頭		9.2	8.1	4.4	3.7	1.1	柳葉頭	柳葉頭		
24回4	44	2	同上	铁製品	鉗頭	(6.4)	(6.4)	5.2	(1.2)		柳葉頭	柳葉頭		
24回5	44	2	同上	铁製品	鉗頭	(7.5)	5.2	(2.3)			柳葉頭	柳葉頭		
24回6	44	2	同上	铁製品	鉗頭	(8.0)	7.3	4.4	2.6	(1.6)	柳葉頭	柳葉頭	木質有り	
24回7	44	2	同上	铁製品	鉗頭	(7.5)	(7.5)	4.8	(2.5)		柳葉頭	三角形頭	台形頭	

24回1	44	2	同上	鉄製品	鉄鏡	(5.6)	(5.6)	5.1	(0.5)	満刻	三角形鏡		木質有り
24回2	44	2	同上	鉄製品	鉄鏡	(5.6)	(5.6)	4.4	(1.6)	2.8	柳葉鏡	台形鏡	
24回3	44	2	同上	鉄製品	鉄鏡	(7.1)	(5.0)	2.5	(2.3)	2.7	柳葉鏡	台形鏡	木質有り
24回4	44	2	同上	鉄製品	鉄鏡	(3.7)	(3.7)	1.1	(3.7)	1.1	三角形鏡	柳葉鏡	
24回5	2	同上	鉄製品	鉄鏡	(4.8)				(2.6)	2.2	満刻	柳葉鏡	木質有り
24回6	2	同上	鉄製品	鉄鏡	(5.0)	(4.0)	(2.5)	1.5	1.0		三角形鏡	柳葉鏡	木質有り
24回7	44	2	同上	鉄製品	鉄鏡	(6.5)	6.5	6.0			柳葉鏡	柳葉鏡	角鏡
24回8	44	2	同上	鉄製品	鉄鏡	(5.1)	(5.1)	(2.9)	(2.2)		三角形鏡	角鏡	
24回9	44	2	同上	鉄製品	鉄鏡	(6.3)	(6.3)	(4.0)	(2.3)		三角形鏡	角鏡	
24回10	44	2	同上	鉄製品	鉄鏡	(4.1)	(4.1)	3.1	(1.0)		長鑑鏡	角鏡	
24回11	44	2	同上	鉄製品	鉄鏡	(3.1)	(3.1)	(1.6)	(1.5)		長鑑鏡	角鏡	
24回12	2	同上	鉄製品	鉄鏡	(8.7)	(8.7)	(0.7)	(6.0)		長鑑鏡	角鏡		
24回13	2	同上	鉄製品	鉄鏡	(11.9)				(10.3)	(1.6)	長鑑鏡	斜状鏡	木質有り
24回14	44	2	同上	鉄製品	鉄鏡	(6.6)			(5.0)	(1.6)	長鑑鏡	斜状鏡	木質有り
24回15	44	2	同上	鉄製品	鉄鏡	(2.4)	(2.4)	(1.7)	(0.7)		長鑑鏡	角鏡	
24回16	45	2	同上	鉄製品	鉄鏡	(4.7)			(3.6)	(1.1)	長鑑鏡	斜状鏡	
24回17	45	2	同上	鉄製品	鉄鏡	(6.9)			(5.1)	(1.7)	長鑑鏡	斜状鏡	木質有り
24回18	45	2	同上	鉄製品	鉄鏡	(10.9)			(8.3)	(2.6)	長鑑鏡	台形鏡	木質有り
24回19	45	2	同上	鉄製品	鉄鏡	(9.0)	(9.0)	(5.2)	3.8		長鑑鏡	無鏡	木質有り
24回20	45	2	同上	鉄製品	鉄鏡	(7.1)			(7.1)		長鑑鏡	角鏡	
24回21	45	2	同上	鉄製品	鉄鏡	(5.7)			(5.7)		長鑑鏡	角鏡	
24回22	45	2	同上	鉄製品	鉄鏡	(5.5)			(5.5)		長鑑鏡	角鏡	
24回23	45	2	同上	鉄製品	鉄鏡	(4.8)			(4.8)		長鑑鏡	角鏡	
24回24	45	2	同上	鉄製品	鉄鏡	(5.1)			(5.1)		長鑑鏡	角鏡	
24回25	45	2	同上	鉄製品	鉄鏡	(4.0)			(4.0)		長鑑鏡	角鏡	
24回26	45	2	同上	鉄製品	鉄鏡	(2.2)			(2.2)		長鑑鏡	角鏡	
24回27	45	2	同上	鉄製品	鉄鏡	(3.1)			(3.1)		長鑑鏡	角鏡	
24回28	45	2	同上	鉄製品	鉄鏡	(2.5)			(2.5)		長鑑鏡	角鏡	
24回29	45	2	同上	鉄製品	鉄鏡	(2.4)			(2.4)		長鑑鏡	角鏡	
24回30	45	2	同上	鉄製品	鉄鏡	(2.0)			(2.0)		長鑑鏡	角鏡	
24回31	45	2	同上	鉄製品	鉄鏡	(1.9)			(1.9)		長鑑鏡	角鏡	
24回32	45	2	同上	鉄製品	鉄鏡	(1.8)			(1.8)		長鑑鏡	角鏡	
24回33	45	2	同上	鉄製品	鉄鏡	(1.7)			(1.7)		長鑑鏡	角鏡	
24回34	45	2	同上	鉄製品	鉄鏡	(1.6)			(1.6)		長鑑鏡	角鏡	
24回35	45	2	同上	鉄製品	鉄鏡	(1.5)			(1.5)		長鑑鏡	角鏡	
24回36	45	2	同上	鉄製品	鉄鏡	(1.4)			(1.4)		長鑑鏡	角鏡	
24回37	45	2	同上	鉄製品	鉄鏡	(1.3)			(1.3)		長鑑鏡	角鏡	
24回38	45	2	同上	鉄製品	鉄鏡	(1.2)			(1.2)		長鑑鏡	角鏡	

特徴番号	出土地点	種別	器種	全長	刀身部			茎部			備考			
					長さ	幅	厚さ	長さ	口幅	尻幅	厚さ	目釘孔		
25回1	46	2	同地名	鉄製品	刀子	8.2	2	0.7	(4.0)			0.9		
25回2	46	2	同上	鉄製品	刀子	(5.8)	1.7	0.4	5.7	0.9	0.4	1.3	同形	
25回3	46	2	同上	鉄製品	刀子	(2.0)	1.3	0.5	7.4	1	0.5	0.3	同形	
25回4	46	2	同上	鉄製品	刀子	(8.4)			0.6					
25回5	46	2	同上	鉄製品	刀子	5.7	0.5	(1.0)		0.5		0.6	片肩	木質残る
25回6	46	2	同上	鉄製品	刀子	-	-	-	4.2		0.6		木質残る	木質残る

特徴番号	出土地点	種別	器種	全長	刃部			茎部			形状	備考		
					長さ	幅	厚さ	長さ	幅	厚さ				
26回1	45	2	同地名	鉄製品	刀子	18.7	9							木質残る
26回2	45	2	同上	鉄製品	刀子	(10.0)	4.5							木質残る
26回3	45	2	同上	鉄製品	刀子	15.1	7.8		5					直角の柄
26回4	45	2	同上	鉄製品	刀子	13.3	4.5			3				木質残る
27回1	46	2	同地名	鍛冶用	鍛冶用	11.5	0.6	1						

特徴番号	出土地点	種別	器種	全長	計測部位						備考			
					a	b	c	d	e	f	g			
28回1	46	2	同地名	銅製品	月桂	4	4.3	2.5	0.8	0.8	0.6		和製か	
28回2	46	2	同上	銅製品	月桂	2.6	2.9	1.5	0.7	0.8	0.7		和製を貼る	28回3と対か
28回3	46	2	同上	銅製品	月桂	2.7	3	1.7	0.7	0.6	0.6		和製を貼る	28回2と対か
28回4	46	2	同上	銅製品	月桂	2.5	2.7	2.1	0.4	0.4	0.3		28回3と対か	
28回5	46	2	同上	銅製品	月桂	-	-	-	0.3	0.4			28回4と対か	

特徴番号	出土地点	種別	器種	口径	器形	銘文	大正大	最大厚	孔径	面径	形状上の特徴	色調		
29回1	1	2	南溝	青銅器	銅鏡	10.9	3.8						緑色	
30回1	47	2	同地名	銅製品	月桂	3.8	2.9	1	14	7	楕円	半透明	赤色	
30回2	47	2	同上	銅製品	月桂	-	-	-	-	-	楕円	半透明	赤色	
30回3	47	2	同上	銅製品	月桂	-	-	-	-	-	楕円	半透明	赤色	
30回4	47	2	同上	銅製品	月桂	-	-	-	-	-	楕円	半透明	赤色	
30回5	47	2	同上	銅製品	月桂	-	-	-	-	-	楕円	半透明	赤色	
30回6	47	2	同上	銅製品	月桂	-	-	-	-	-	楕円	半透明	赤色	
30回7	47	2	同上	銅製品	月桂	-	-	-	-	-	楕円	半透明	赤色	
30回8	47	2	同上	銅製品	月桂	-	-	-	-	-	楕円	半透明	赤色	
30回9	47	2	同上	銅製品	月桂	-	-	-	-	-	楕円	半透明	赤色	
30回10	47	2	同上	銅製品	月桂	28	7	3	2.5	6	楕円	半透明	赤色	
30回11	47	2	同上	銅製品	月桂	25	9	3	2	13	9	楕円	黒色 透明	片肩穿孔
31回1	47	2	同上	銅製品	月桂	-	-	-	-	-	楕円	半透明	赤色	
31回2	47	2	同上	銅製品	月桂	-	-	-	-	-	楕円	半透明	赤色	
31回3	47	2	同上	銅製品	月桂	17	22	1	9	10	楕円	無色 透明	片肩穿孔	
31回4	47	2	同上	ガラス製品	丸玉	10	8.5	2	15	5.5	5	ガラス	透明色	
31回5	47	2	同上	土製品	小玉	8	8	2	15	5	4	土	透明白	片肩穿孔
31回6	47	2	同上	土製品	小玉	7	5.5	1	1	4	3	土	透明白	片肩穿孔

2号填出土铜鏡



同上



1区 1号墳検出状況
(東から)



同上 (南から)



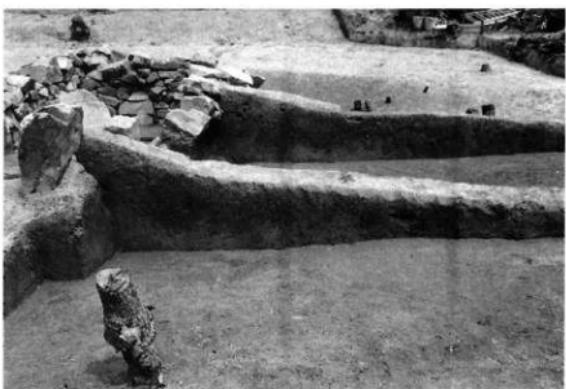
1号墳石室天井石除去後
(南から)



1号墳石室天井石除去後
(北から)



1号墳墳丘東側土層
(南から)



同上 西側土層
(南から)



1号墳石室南北土層
(東から)



1号墳石室南北土層
(東から)



1号墳石室東西土層
(南から)



1号墳石室南北土層
(西から)



1号墳石室羨道部土層
(北から)



1号墳石室内完掘状況
(南から)



1号墳石室内完掘状況
(北から)



同上 (正面から)



1号墳石室奥壁
(南から)



1号墳石室に完掘状況
(西から)



1号墳石室東壁
(西から)



1号墳石室西壁
(東から)



1号墳石室東壁奥
(南西から)



同上 西壁奥
(南東から)



1号墳石室玄門
(北から)



1号墳石室羨道
(東から)



同上 (西から)



1号墳石室東奥石組状況
(北東から)



1号墳石室西奥石組状況
(北西から)



同上 東奥石組状況
(南西から)



同上 西奥石組状況
(南東から)



1号墳から西郷湾を望む



1号墳石室奥壁再下段状況
(西から)



1号墳 整地状況
(南から)



1号墳周溝完掘状況
(東から)



同上　(西から)



1号墳周溝内遺物出土状況
(東から)



1号墳周溝内遺物出土状況
(南から)



1号墳 出土須恵器



8-1

同上



8-2

1号墳 出土須恵器



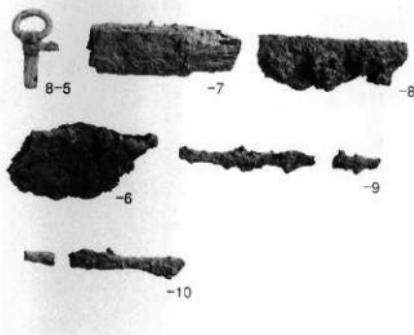
8-3

同上



8-4

1号墳
出土銅製品・鉄製品



2区 調査前



2区 調査前



2区 立地状況



2区から見た西郷湾



2号墳検出状況
(南から)



2号墳墳丘土層



2号墳墳丘土面



2号墳調査風景



2号墳調査風景



2号墳石室遺物出土状況
(南から)



同上



同上 (北東から)



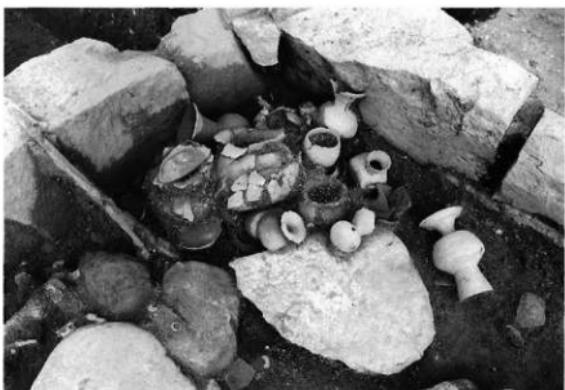
2号墳石室遺物出土状況
(西から)



同上（アップ）



2号墳石室右壁奥遺物出土
状況（南西から）



2号墳石室遺物出土状況
(西から)



2号墳石室南側遺物出土
状況（アップ）



2号墳石室遺物除去後
(南から)



2号墳石室出土棺台検出状況
(東から)



2号墳石室奥壁
(南から)



2号墳石室東壁
(西から)



2号墳石室西壁
(東から)



2号墳石室西壁奥石組状況
(北西から)



2号墳石室完掘状況
(南から)



同上 (北から)



2区 南西側溝完掘
(南から)



2区 SK01完掘状況
(南西から)



2区 SK02完掘状況
(南西から)



2区
SK03・SK04完掘状況
(北から)



現地説明会風景



2号墳石室出土須恵器



2号墳石室出土須恵器



17-1

同上



17-2

同上



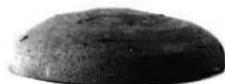
17-3

2号墳石室出土須恵器



17-4

同上



17-5

同上



17-6

2号墳石室出土須恵器



17-7

同上



17-8

同上



17-9

2号墳石室出土須恵器



17-10

同上



17-11

同上



17-12

2号墳石室出土須恵器



17-13

同上



17-14

同上



17-16

2号墳石室出土須恵器



17-17

同上



17-18

同上



17-19

2号墳石室出土須恵器



17-19

同上



17-20

同上



18-1

2号墳石室出土須恵器



18-2

同上



18-3

同上



18-4

2号墳石室出土須恵器



同上



同上



2号墳石室出土須恵器



18-8

同上



同上



2号墳石室出土須恵器



18-9

同上



18-10

同上



18-11

2号墳石室出土須恵器



18-12

同上



18-14

2号墳石室出土土師器



19-1

2号墳石室出土土師器



19-1

同上



19-2

同上



19-3

2号墳石室出土土師器



19-4

同上



19-5

同上



2号墳石室出土土篩器



19-6

同上



同上



2号墳石室出土土師器



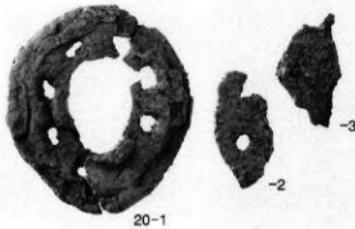
同上



同上



2号墳石室鉄製品



同上



同上



2号墳石室出土鐵製品



21-1

同上



21-4

-3

-2

-5

同上



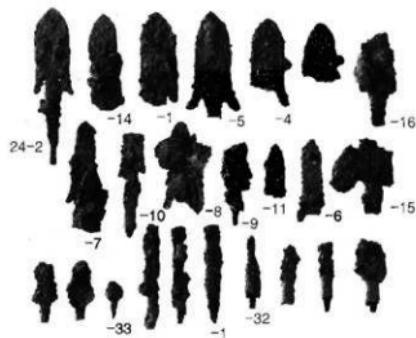
2号墳石室出土鐵製品



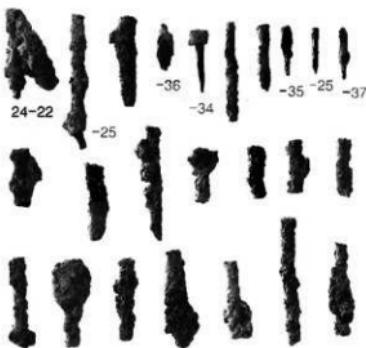
2号墳出土須惠器



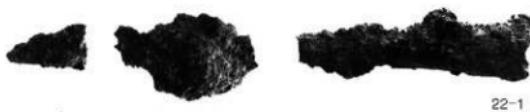
2号墳石室出土鐵製品



2号墳石室出土鉄製品



同上



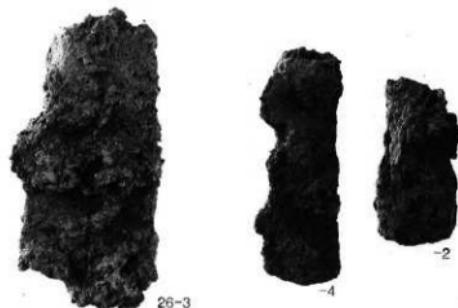
22-1

同上

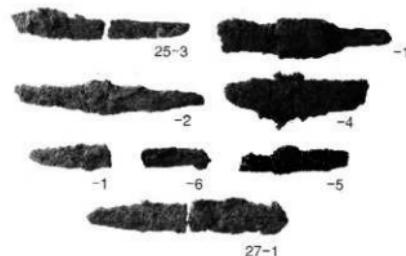


26-1

2号墳石室出土鉄製品



同上



2号墳石室出土銅製品



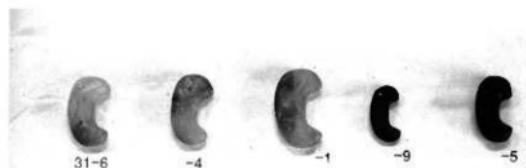
2号墳石室出土銅製品



同上



2号墳石室出土石製品



大座西遺跡発掘調査報告書

発行日 平成18(2006)年3月31日

編集・発行 隠岐の島町教育委員会

〒685-0011 烏根県隱岐郡隱岐の島町栄町1437

TEL 08512-2-2126

FAX 08512-2-0619

<http://www.town.okinoshima.shimane.jp>

e-mail: kyouiku-syougaku@town.okinoshima.shimane.jp

印 刷 渡部印刷株式会社

報告書抄録

ふりがな	おおざにしいせきはつくつちょうさほうこくしよ						
書名	大座西遺跡発掘調査報告書						
副書名	磯地区統合小学校建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書						
巻次							
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者名	横田 登、野津研吾						
編集機関	隱岐の島町教育委員会						
所在地	〒685-0011 島根県隱岐郡隱岐の島町栄町1437 THL08512-2-2126						
発行年月日	2006年3月						
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村					
おおざにしいせき 大座西遺跡	しまねけん 島根県 おきぐん 隠岐郡 おき 隠岐の島町 しだいじ 下西 おざ 大座	しまとうら 隠岐の島町	325287	36° 12' 1"	133° 18' 27"	20020613 ～ 20020623 20020724 ～ 20020922 20040726 ～ 20040811 20040922 ～ 20050111	磯地区統合小学校建設事業に伴う発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
大座西遺跡	古墳	古墳時代	横穴式石室2 周溝	土師器、須恵器、鉄製品、銅製品、石製品、ガラス製品	銅鏡、帶金具、銀象嵌入鏡		